

83-34

北清各港視察報告書

河野文一發行

044367-000-5

83-34

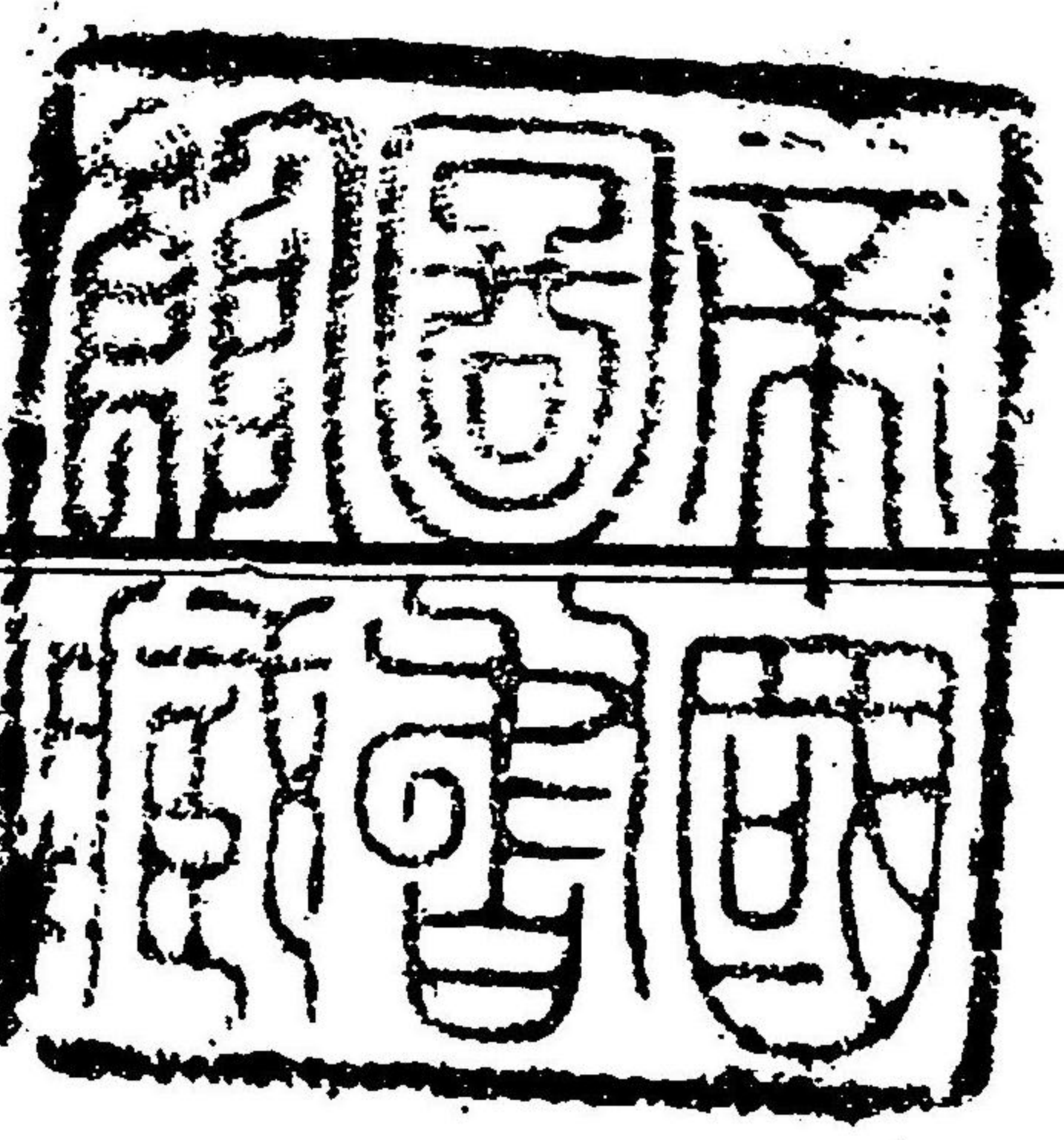
北清各港視察報告書

河野 文一 / 刊

M32

BDN-0438





北清各港視察報告書

目次

第一 上海

第二 天津

一	土地	全	丁
二	河口修築ノ計畫	四	丁
三	吳淞鐵道	七	丁
四	吳淞ノ地所	八	丁
五	水先料	八	丁
六	各港間貨客運賃	十	丁
七	貨客及船舶ニ對スル費用	十一	丁
天津		十五	丁
一	白河口ノ形狀	全	丁
二	白河口ヨリ天津マデノ運送	全	丁
三	白河改良工事	十六	丁
四	白河改良工事費	十七	丁
五	天津ノ地所	十九	丁
六	塘沽ノ地所	二十	丁
七	水陸運送費ノ比較	二十七	丁
八	白河ノ舢舨	全	丁

九	船會社	三十丁
十	各港間貨客運賃	三十七丁
十一	船舶ニ對スル費用	三十八丁
十二	最初入港最終出港船及月日	四十丁
第三	秦皇島	四十二丁
第四	威海衛	四十四丁
第五	旅順口	四十五丁
第六	膠州灣	四十六丁
一	面積及人口	全丁
二	膠州灣及青島ノ地形	全丁
三	氣候	四十七丁
四	產物	全丁
五	漁船ノ寄港	四十八丁
六	稅關	四十九丁
七	獨逸政府ノ膠州豫算	全丁
八	土地制度	五十丁
九	鐵道	全丁
十	山東省ニ於ケル獨逸ノ特權	五十一丁
十一	膠州ノ將來	全丁

第十二	貨物船客運賃	全丁
第十三	船舶ニ對スル費用	五十二丁
第十四	貨物ニ對スル費用	全丁
第七	芝罘	五十五丁
一	概況	全丁
二	貨物集散區域及本港ノ將來	全丁
三	漁船ノ寄港及代理店	五十八丁
四	貨客及船舶費用	五十九丁
五	貨客運賃	六十二丁
第八	牛莊	六十六丁
一	概況	全丁
二	貨物集散ノ區域	六十七丁
三	牛莊ノ將來	七十丁
四	貨物積卸ノ習慣	七十一丁
五	荷客運賃	七十三丁
六	船舶費用	全丁
七	最初最終出入船月日	七十四丁
第九	北清鐵道及露清鐵道	七十五丁
第十	上海天津航路	八十三丁

附 錄

一 概況	全 丁
二 上海天津間運賃	八十四丁
三 本航路ノ營業者	全 丁
四 本航路ニ適當ノ船舶	八十六丁
五 船内組織	八十七丁
六 中間港	八十八丁
七 發着日時	全 丁
八 航海度數	八十九丁
九 冬季ノ配船	九十丁
十 冬季ノ郵便物運送	全 丁
膠州港則	九十一丁
同稅關規則	全 丁
內地河海航通規則	九十五丁
	百 丁

第一 上海

一 土地

上海ハ支那商業ノ中心市場ニシテ支那ノ沿海航業ヲ營ムモノ、本據トスル所ナリ
 我社ノ如キ楊子江航路ヲ有スル以上ハ此地ニ根據ヲ定メ陸上ノ設備ヲ完成スルノ
 要既ニ永ク社内ノ定論タリ進ンテ支那沿海各航路ヲ開カントスルニハ其設備ノ益
 急且要ナルヲ見ルナリ蓋シ上海陸上設備ノ有無ハ沿海航路ノ開否ヲ決スルノ第一
 必要條件ト言フヲ得ベシ上海天津航路ノ如キ最モ有利ノ航路タルハ殆ソド航業者
 間ノ定論ナリト雖モ上海ノ陸上設備ナクンバ到底着手スベカラス着手スルモ利益
 ナク收ムルノ成算ナシ今日ニ於テ上海ニ航業上必要ノ土地ヲ買得スルハ異常ノ困難
 ナリト雖モ其困難ハ則チ競争船ヲ防禦シ運賃ヲ維持スルノ堅壘ニシテ今日ニ至ル
 一サ三會社ガ依テ以テ沿海航業ノ利益ヲ壟斷セシ所以ノ原因ナリ我社ノ如キ既ニ
 開航セシ楊子江航路ノ完成ヲ期セズ又前途航業上最有望ナル支那沿岸航海ノ業ヲ
 擲棄シテ毫モ顧ミザルノ覺悟ヲ定ムレバ則チ己ム苟クモ然ラズンバ今ニ於テ上海
 ニ要地ヲ獲得スルハ焦眉ノ急ニシテ少クモ三會社ト對等ノ利益ヲ收ムル所以ノ第
 一要件タリ土地買收ハ頗ル困難ニシテ其費用多額ヲ要スベシト雖モ控手シテ日ヲ
 送ルトキハ地價益上リ益困難ナルベシ殊ニ吳淞ニ於ケル浚河治水ノ計畫實行セラ
 レ大船巨舶ノ自由ニ上海ニ出入スルノ時ニ向ハ上海ニ於ケル航業用地所ハ其價
 ニ暴騰ヲ來スチ免カレザルベシ
 上海ニ於テ我社ニ必要ノ土地ヲ買收スルハ頗ル困難ノ業ナリト雖モ蓋シ之ヲ得ル

途ナキニアラズ詳細ハ口述ニ譲リ他日ノ参考ノ爲メ左ニ見聞ノ事實ヲ略記スベシ
 英租界公園ヨリ英佛租界ノ境即チ「ヤンキヤン」橋ニ至ル水面(約一英里)ノ使用權ハ「バ
 ンド」ノ土地所有主ニ屬スルヤ否ヤ一問題トナレリ「シヤードンマシソン」商會ハ其使用
 權ヲ主張シ居留地役所ハ之ヲ非認セントノ説アリ但居留地役所ハ未ダ最終ノ決定
 ナ與ヘズト云フ若シ「シヤードンマシソン」商會ノ主張ニシテ其目的ヲ達センカ河水稍
 淺キノ憾アリト雖モ上海ニ於ケル航業用地所ハ其範圍稍々擴大スベシ
 明年ヨリ楊子江航路ヲ開カントスル獨人「アルノルド」カールベルグ商會ハ「オールド」寧波棧
 橋ヲ借入レタリ商業ノ要地ヲ距ルコト甚々遠ク頗ル不便ノ位置ニアリ蓋シ他ニ借
 入ヲ約スベキ棧橋ナキガ爲メ已ムヲ得ザルニ出デタルナリ
 現ニ天津線ヲ有シ又「アルノルド」カールベルグ商會ト等シク明年ヨリ楊子江航路ヲ
 開カントスル獨人「メルチヤルス」商會ハ上海ノ對岸ナル埔東ノ「モリス」碼頭ヲ借入レ
 タリ埔東ノ地荷客ノ搭載ニ不便ナルハ明白ナレドモ「ナルド」寧波棧橋ニ比スレハ大
 差ナカルベシ
 招商局ハ埔東棧即チ金利源ノ對岸ニ有スル碼頭ヲ賣却セントス「インター」ナシヨナ
 ルコト「モリス」會社ハ一年五千兩ニテ借入ヲ申込ミタリトノ説アリ此碼頭ハ不便
 ナルコト「モリス」碼頭ト同一ナルノミナラズ水淺キガ故ニ浚渫ヲ要ス浚渫シテ永持
 スルヤ否ヤ詳密ノ攻究ヲ要ス日本郵船會社接隣ノ碼頭ハ賣物ナレドモ水面ノ長サ
 百六十尺ヲ出デズ故ニ獨立シテ其用ヲナサズ
 佛租界ノ上端ニ接スル支那街ノ水面ハ其深サ招商局金利源碼頭ノ水深ト大差ナク

貨客ノ招致ニ便利ノ地ナレドモ居留地外ナルト支那船ノ繫留場タルノ故ヲ以テ之
 チ私有スルコト困難ナルベシ

「メルチヤルス」商會ハ「モリス」碼頭ヲ借入ル、ノ前佛租界ニ在ル自己ノ店前即チ現今
 太古商會ノ北京號繫留ノ水面ヲ利用セント企テ自己商店所在ノ地所ヲ貳拾五萬兩
 ニテ買入レタリ左レドモ此地所ノ水面ハ僅カニ百四五十尺ニシテ一船ノ長ニ滿タ
 ズ依テ更ニ隣地ノ買收ニ手ヲ下セリ隣地ノ水面約百五十尺ニシテ兩地ノ水面ヲ合
 シテ始メテ長三百尺許ノ船ヲ繫留スルヲ得ルナリ然ルニ隣地ハ「シヤードンマシソン」
 商會ノ所有ニシテ新築ノ建物アリ參拾參萬兩ヲ唱ヘ其高價ナルガ爲メニ賣買談成
 ラズ而シテ三百尺ノ水面兩地ニ分ル、トキハ貴重ノ地所活用ヲナサズ他日調談ノ
 時アルベシト稱ス參拾參萬兩ト稱スル地所ノ明細書ハ左ノ如シ
 課税ノ爲メ測定シタル面積 十畝三 約二千坪餘
 一ヶ年借屋賃大約

佛	銀	行	四	千	兩	ホイロツク商會	四	千	兩			
佛	銀	行	四	千	兩	チイルロー商會	三	千	六	百	兩	
佛	銀	行	四	千	兩	ホピキンス商會	七	百	兩			
日	本	商	會	千	貳	百	兩	ギロール商會	千	貳	百	兩
其他新建築物 千五百兩												
合計貳萬四千四百八十兩												

佛租界ニ於ケル其他ノ地所及ヒ日本領事館前ヨリ獨逸領事館前ニ至ルノ間加工セ

ハ一船ヲ繫留スルニ足ルヤ否ヤ獨逸領事館敷地ノ水面使用權ヲ得ルノ目的アルヤ否ヤ日本領事館敷地拂下ノ許可セラル、ヤ否ヤ探究ノ價ナキニアラス

二 河口修築ノ計畫

上海河口即チ吳淞港修築ノ議ハ二十七八年役前ニ起リ其計畫及工事ノ豫算モ略ホ成リ支那政府モ亦々天津條約十五條ニ依リ其工費ノ負擔ヲ假納シタリト雖モ今ヤ財政究乏此工費支出ハ支那政府ニ待ツコト能ハザルニ至レリ然レモ吳淞港ノ修築計畫ヲ完全ニ成工スルノ費用ハ約三百万兩ニ過ギズ支那商業ノ中心市場タル上海ニ於テ三百万兩ノ資金ヲ集ムルハ蓋シ難事ニアラズ天津ニ於ケル白河改良工費分擔ノ方法ヲ參酌シテ資金ノ出途ヲ定メ早晚着手スルニ至ルベシ
抑モ黃浦江ノ吳淞ヨリ上海ニ至ルノ間航運ノ用ヲナスモノハ上流ヨリ來ル水量ニ依ルニアラズシテ全ク其河口ニ於ケル水準ノ潮流ニ依リテ高低スルノ作用アルニ職由スルナリ若シ之ナクンハ黃浦江近傍雨水排出ノ一溝渠タルニ止マリ其幅ハ二百里乃至三百呎其深ハ三呎乃至四呎ヲ保ツニ過キザルベシ而シテ潮流ノ申江ニ於ケルノ作用ハ年々減耗スルノ傾キアリ上流ヨリ流下スル泥土ノ河身ニ殘留スルモ一源因ナルベシト雖モ其主因ハ上海ヨリ下流十四海里ノ間河岸ノ崩潰シテ潮流ヲ防遮スルニアルナリ故ニ此十四海里ハ將來ニ於テ上海ノ死活ヲ決スルノ要道ナリ近年ニ至ルマデ上海ニ於テ航業上莫大ノ利害ヲ有スル巨商ニシテ吳淞内部淺洲ノミニ注目シ其水深ノ減ズルヲ見テ始メテ憂慮ノ念ヲ起シタルカ如キハ奇怪ノ事ト言フベシ若シ長ク修河ノ工事ヲサズンハ他年申江ハ小滾船ノ航運ニモ支障アル

ニ至ルベシ(リシケ氏ノ説)

海岸監視者リスピ一氏ノ報告ニ依レバ吳淞ニ於ケル潮水ノ高低ハ左ノ如シ(千八百九十三年ノ測量)

二十年最高春潮

一〇、〇三呎

全 最低潮

四、一五呎

河口ヨリ二哩ヲ距ル「シグナルステーション」ニ於テ測量シタル六ヶ月間平均ノ潮量ハ七呎五三ナリト云フ又々潮時ニ依ル水量ノ増加ハ上流ニ至ルニ隨ヒ減殺セラル、コト左ノ如シ(千八百九十八年七月一日ノ測量)

河口即チ燈臺ノ所ヨリ「シグナルステーション」ニ至ルマテ(二哩)〇一、〇五呎

全 「タイキンクリーキ」ニ至ルマテ (四哩)〇三、〇〇呎

全 「カウチヤウクリーキ」ニ至ルマテ (五哩)〇三、六〇呎

上海領事會議ノ決議ニ依リ技師リシケ氏ヲ招聘シ黃浦江改良計畫ヲ立テタルコトアリ同氏ノ計畫ハ一般ニ略ホ是認セラレタルモノ、如シ惟之ヲ決行スルノ資金出途未ダ定マラザルノミ同氏ノ計畫ニ甲乙二案アリ甲案ハ「ポイントホテル」ノ上流「ソフトポイント」若クハ「タイキンクリーキ」ノ邊ヨリ埔東半島ヲ橫斷シテ揚子江ニ航運ノ水路ヲ開クモノニシテ「タイキンクリーキ」ヨリ上流上海マデノ距離ハ一万一千七百ヤード「ダイキンクリーキ」ヨリ新ニ開ク水路ノ揚子江ニ達スルマデノ距離四千二百三十ヤードナリ此案ニ依ルトキハ新河口即チ海ト上海トノ距離ハ吳淞ニ出ヅル現今ノ水路ニ比シ四海里四分ノ三ヲ短縮スルナリ(第一圖參看)

乙案ハ「カウチヤウクリーキ」ノ上流千三百ヤードノ所マデハ甲案ト同様ノ工事ニシ

テ此所ヨリ始メテ流勢「ガフアイランド」ノ左方ニ導キ現今ノ「ジャンクチャンネル」
 * 通路トナスナリ現今瀛船ノ通路タル「シツプチャンネル」ハ其上方ニ於テ凡ソ低潮
 ノ水準マデニ閉鎖工事ヲ行ヒ流勢ヲ一方ニ集ムルノ設計ナリ略圖ニ於ケル朱線ハ
 低水ニ於ケル新河幅ヲ示スモノニシテ「ジャンクチャンネル」ノ所ニ於テ二千二百呎
 ヨリ二千二百四十呎トナシ漸次擴大シテ吳淞燈臺ノ所ニ至リテ二千四百呎トナリ
 外部淺洲ノ所ハ二千七百呎トナルナリ此ノ如ク河幅ヲ擴大スルニ付テハ「フェザン
 トポイント」ノ所ニ於テ凡ソ九百呎干潮ノ時ヨリ云ヘハ一千三百呎乃至二千二百六
 十呎ノ切開チナサルベカラズ而シテ現今瀛船ノ通路ヲ閉鎖シテ「ジャンクチャンネル」
 「テ瀛船ノ新通路トナスハ現在自然ノ流勢既ニ「シツプチャンネル」ニ弱クシテ「ジ
 ヤンクチャンネル」ニ流力ヲ集ムルノ傾向アルノミナラズ技術上亦タ其利アルガ爲
 メナリト云フ此點ニ付キ「カピテンリビ」氏ノ十年間ノ實測ハ左ノ如キ結果ヲ呈セリ
 「ジャンクチャンネル」ノ幅 「シツプチャンネル」ノ幅 河ノ全幅
 一、八八七年 二五、一三〇呎 二四、一〇〇呎 四九、二三〇呎
 一、八九三年 二四、五〇〇呎 二一、三六〇呎 四五、八六〇呎
 一、八九七年 二六、三〇〇呎 一七、三九〇呎 四三、六九〇呎
 十年間ニ於テ「シツプチャンネル」ノ狹縮セシコト右表ノ如シ是レ「カシヨウ淺瀬ヨリ
 ノ流勢ニ依ルモノナリ而シテ「カシヨウバー」以下ノ沿岸ヲ保持スルノ費用ハ十萬兩
 ニテ足ルベシト云フ是レ固ヨリ姑息ノ策ナリ
 前記乙案ヲ完成スルノ費用ハ大約三百萬兩ナリト支那道臺稅關商業會議所ヲ以テ

組織スル黃浦江保存會ハ成立シテ早晚修河工事資金調達ノ方法ヲ定ムルニ至ルベ

三 吳淞鐵道

吳淞鐵道ハ延長十七哩ニシテ複線ナリ現今唯客車ノ運行ニ止マリ貨物運搬ノ用ヲ
 ナサズ上海ニ於ケル停車場ハ米租界上端ノ原野ニ僻在シ吳淞ニ於テハ「ウーソンク
 リーキー」ノ架橋未ダ成ラズ其運輸上利用セラレザルハ當然ナリ假令ヒ上海ニ於ケル
 停車場ノ位置ヲ變更シ又架橋工事成リ貨物運送ノ設備整頓スルモ水運ノ利ニ對
 抗スルコト頗ル難事ナラシ況ンヤ黃浦江改良工事ハ早晚着手セラルベキモノナル
 ニ於テチヤ故ニ本線ニシテ延長シテ蘇州杭州ニ至ルノ日ハ別論トシテ現在ノ景狀
 ニテハ茲ニ詳記スルノ價值ナシ唯是レ本鐵道ノ吳淞ニ於ケル終點ノ地位ハ遠キ將
 來ニ於テ大船繫留上多少參考ノ要アラソカ(第二圖參看)

四 吳淞ノ地所

佛ノ「メツサセリ」ヤソチ「ム」會社日本郵船會社ノ如キ吳淞ニ於テ繫船用地所ヲ買
 收セリ我社ニ於テモ將來ヲ圖リ之ヲ買収シ置クノ必要アルヤ否ヤ卑見ハ左ノ如シ
 黃浦江改良ノ工事落成シ歐米通航ノ瀛船モ自由ニ上海ニ出入スルニ至ル者トセバ
 吳淞ハ上海ノ繁昌漸次ニ下流ニ擴張シテ河口ニ達スルノ日ニ於テ始メテ航業上ノ
 要地トナルナリ今ノ上海ハ既ニ狹隘ニシテ棧橋ノ欠乏ハ勿論陸上ノ商工業モ亦タ
 現在ノ居留地ニ包容スルヲ許サズ故ニ數年前ヨリ居留地擴張ノ議ハ輿論ノ認ムル
 所ニ各國既ニ屢々支那政府ニ交渉シ未ダ其成果ヲ見ザルモ早晚吳淞港マデ其地

域ヲ擴張スルノ時アルハ衆人ノ認ムル所ナリ果シテ然ラバ將來ノ利益ノ爲メ吳淞ニ航業上必要ノ地ヲ買得スルハ今日ヲ以テ時機トナス何トナレバ吳淞ノ沿岸線長シト雖モ航業上優勝ノ地位ハ多キニアラスシテ其價格モ漸次騰貴スルノ傾向アルヲ免カレザレバナリ然レドモ上海地所ノ如ク急要ノ問題ニアラザルナリ一步ヲ進メテ考フルトキハ他日上海ノ外國貿易異常ノ發達ヲナシ航運業亦タ進歩シテ一萬噸内外ノ船舶出入スルノ必要ヲ見ルトキハ吳淞ハ少クモ支那各港ニ對シ貨物集散ノ要地トナルノ時アルベシ此時ニ至テハ鐵道ノ連絡ヲ要スベシ鐵道終點ノ地ニ倉庫ヲ設ケ棧橋ヲ架スルノ必要ヲ見ルベシ

吳淞ニ於ケル土地ノ要部ハ吳淞土地會社ノ手ニ歸シ同會社ハ市區ノ區劃ヲ立テ道路ノ幅ヲ定ムル等ノ計畫ヲナシ既ニ土工ニ着手セル箇所モアリ別圖ヲ一覽セバ吳淞鐵道ノ終點及ビ吳淞土地ノ要部ヲ概見スルニ足ルベシ其朱色ヲ附スルハ同會社所有地ナリ

江灣停車場附近シグナルステーションノ上邊「シヤンクチヤンチル」ノ下端ノ所ニ三十四畝六二五ノ賣地アリ價三千五百兩ヲ稱スレドモ實際談トナレバ一千兩以上ヲ減却スルナラン地位ハ海ヨリノ風ヲ受ケズ前面ハ水深クシテ大船ノ繫留ニ適セリ唯少シク憾トスルハ吳淞鐵道ノ終點ニ遠キノ點ノミ他日ノ參考ノ爲メ圖面ヲ附ス

(第三圖參看)

五 上海港水先料

上海ニ於ケル水先料ハ從來一呎四弗ナリシガ本年六月水先案内者團休ヨリ海員組

合ニ對シ右増額ノ義ヲ請願シタル要旨ハ左ノ如シ

第一現行ノ水先料ハ千八百六十七年銀兩ノ價格金貨ノ六志八片ニ相當セル際規定セラレタルモノニシテ爾來銀貨ノ價格著シク低落シタル爲メ歐米人ノ俸給ニ衣食スルモノハ夫々増額セラレタルニ拘ハラズ水先料ノミハ依然當時ノ率ニ據レリ

第二一般ノ生活費、小艇ノ製造及ヒ其維持ニ要スル費用ノ増加并ニ水夫ノ給料加倍セル等頗ル營業上ノ失費夥シク現ニ他ノ海運業ニ關係ヲ有スルモノ就中稅關吏ノ如キハ六割ノ増俸ヲ得タルニ拘ハラズ水先料ノミハ依然舊時ノ率ニ據レリ

前記ノ理由ニヨリ自今上海港水先料ハ左ノ率額ニ改正アリ度

	帆船	船	船
「ガーツラフ」ヨリ上海迄	一呎	八兩	一呎
吳淞ヨリ上海迄	全	三兩五	全
「ガーツラフ」ヨリ吳淞迄	全	五兩	全
			四兩

第三現時航海ノ船舶ハ吃水ニ加フルヲナクシテ船休ヲ太ムルノ傾向アルヲ以テ他港ノ如ク一定ノ船積以上ハ其噸數ニ對シ特ニ課稅スルハ至當ノヲニシテ即チ是等ノ瀛船ヲ操縱スルノ困難ト危險ニ對シ左記ノ噸稅ヲ課スルヲニ改正アリ度

上海入港ノ船舶登簿噸數千噸以上ナルトキハ其以上ノ噸數ニ對シ壹噸(三分兩)
 吳淞入港ノ船舶登簿噸數千噸以上ナルトキハ其以上ノ噸數ニ對シ壹噸(二分兩)
 第四水先案内ヲ要スル現行區域ハ「ガーツラフ」ト「アイメストロツク」トノ間ニ規定
 シアルヲ以テ揚子江ニ入ル船舶ハ此區域ニ達セサル内ヨリ水先案内指導ノ力
 ニ依ルテ多キヲ以テ斯ル場合ニハ港外水先料トシテ左記ノ率ヲ徴収スルヲニ
 改メラレ度ヲ

海ヨリ「ガーツラフ」迄	帆	船	漚	船
一呎	二兩	一呎	一兩	一兩

前記ノ請願ニ對シ港長ハ其意見ヲ述ベテ曰ク第一第二第三ノ項ハ何レモ理由アル
 一ニシテ就中第一第二ハ爭フ可カラザル事實ノ問題タルモ第四ノ一項ニ對シテハ
 猶考究スベキモノ多ク直チニ賛同スルヲ得ス元來現行ノ定率ハ千八百六十七年
 ニ規定セラレタルモノナルニ當時ハ水先案内ノ業務頗ル困難ヲ極メ其收入モ亦少
 ナカリシカ今日ハ之レニ反シ水先案内ニテ瀛船會社ニ常備トナルモノハ海上ニ見
 張チナスノ必要ナク豫メ着船ノ時刻ヲ知テ現場ニ臨ムヲ以テ時間ヲ徒消スルヲナ
 ク當時ニ比シテ其操業頗ル輕易ナリト然レモ彼ノ專ラ海上ニ見張チナセル水先
 案内者(即チ一般公衆ノ雇用ニ應スルモノ)ニ至テハ前記ノ如キ便ヲ得ルヲナキノミ
 ナラス小艇維持其他ニ少ナカラザル費用ヲ要シ雇用ノ便少ナキカ爲メ却テ收入ノ
 寡少トナレルハ事實ナルカ故ニ是等ノ水先案内者ニ對シテハ水先料増額ノ義ハ至

當ノ「ナル」ヲ以テ速ニ其取計有之度猶之レガ増額ト同時ニ一方ニハ常備水先案内
 ニ多少ノ制限ヲ附シ又他方ニハ水先案内者團體ノ組織ヲ改メ新進者養成ノ方法ヲ
 設ケ真正ノ水先案内者タルノ職責ヲ盡サシメンヲ希望ニ耐ヘサル所ナリ云々
 前記水先料増額ニ關シテハ商業會議所ノ議ニ上セ其意見ヲ得タル上領事會議ニ懸
 ケ結局ハ多少ノ増額ヲ見ルノ已ムヲ得サルニ至ルベシ云々

六 各港間貨客ノ運賃

上海ヨリ天津芝罘牛莊ニ至ル船客及ヒ貨物運賃ハ以前同盟三會社ニ於テ協定シタ
 ル定率猶其効ヲ有シ就中貨物運賃及ヒ清國人船客ノ運賃ノ如キハ時々多少ノ懸引
 アリト雖モ大体ハ此率ニ據レリ故ニ茲ニ掲記セス上海膠州灣間貨物運賃ハ大約上
 海芝罘間ノ率ニ準ス但シ種類ニ依リテハ之レヨリ幾分ノ減額ヲ見ル其主ナルモノ
 ヲ擧クレバ左ノ如シ

棉	糸	一個	兩、七五
金布其他綿布類	一噸	三、〇〇	
荒	粉	一噸	三、〇〇
麥	粉	百斤	一、一五
雜	貨	全	一、一五
船客運賃ハ全ク上海芝罘間ト同一ナリ			
外國人	上等	二、五〇	
外國人	中等	九、〇〇	
清國人	下等	七、五〇	

三會社荷物運賃ニ對スル歩金ハ一割五分ニシテ買辦之レテ收得シ其内ニテ荷主
 戻金ヲ支出シ餘ヲ其所得トス
 船客運賃ハ外國人ニ對スル分ハ會社ノ實收トシ一食一弗ノ賄費ヲ以テ賄長ニ受
 負ハシメ清國人ニ對スル分ハ招商局ニ於テハ一人ニ付キ食料トシテ五錢(兩)ヲ他
 ノ二會社ニテハ一人ニ付キ一兩ヲ買辦ニ與ヘ而シテ買辦ハ一ヶ月百兩ノ俸給ト
 前記ノ食料ヲ以テ船客ノ賄ヲ引受クル方法ナルカ到底引合サルヨリ買辦ハ船客
 ノ數ヲ詐リ百人ニ對スル運賃ヲ七八十人トシテ計算シ其餘ヲ自己ノ收得トナス
 弊害アリト云フ

七 貨客及ヒ船舶ニ對スル費用

船客ニ對スル費用

前項ニ記載シタル食料ノ外別ニ費用ヲ要セス船舶埠頭ニ着セサルキハ舳板若ク
 ハ小蒸氣船ヲ以テ船客ノ送迎ヲナサル可ラス舳板一隻一ノ日雇入賃ハ五十仙
 ナリトス

貨物ニ對スル費用

本港ニ輸入スル商品ハ船主之レテ陸揚藏入シ藏敷荷渡迄之レガ費用ヲ負擔セサ
 ル可ラス而シテ藏入後十日間ヲ經過シテ引取ラサレハ其以後ニ對スル藏敷料ハ
 受荷主ノ負擔トス又船主ハ最初藏入及ヒ十日間ニ對スル藏敷ヲ支拂フトキ藏出
 荷渡費ヲモ同時ニ支拂フ習慣ナリトス上海虹口棧橋會社ニ於テ定メタル藏入藏
 出藏敷ノ定率ハ別表ノ如シ而シテ虹口ハント、ハーズ、オールドニシテ西プロト

ン東プロト、タンカヅ、ノ各棧橋モ亦該定率ニ據レリ猶本船ニ於テ日曜、休日及
 ヒ夜間陸揚ヲナシタルトキハ船主ハ特ニ前記定率ノ半額ヲ負擔セサル可ラス
 唯石炭ノミハ前記ニ反シ陸揚及ヒ藏入藏敷荷渡等悉ク貨主ノ負擔トナリ居レリ
 輸出品ハ荷主ニ於テ陸上ハ倉庫ヨリ水路ニ依ルモノハ或ハ支那船ヲ用ヒ或ハ
 上海船會社ノ船ニテ本船々側ニ回漕シ船主ハ單ニ其積込船内人足賃ノミヲ
 負擔ス
 上海船會社ハ五十噸乃至五百噸積ノ鐵製船七十隻曳船小蒸氣船四隻ヲ以テ
 貨物回漕ヲ營業トナセルカ保險會社ハ何レモ此船ノ貨物ニ對シテハ船保險ヲ
 附シツ、アルニ拘ハラズ船賃高價ナルヲ以テ清國商人ハ大概其持船ヲ借合セ
 貨物積卸船内人足賃ハ時々變動ナキニアラザレドモ大約左ノ率ニ依ル

揚子江航行船

積込 一噸 六仙

揚荷 一噸 六仙

沿岸航海船

積込 一噸 十仙

揚荷 一噸 十仙

石炭陸揚 一噸 六仙

但吳淞附近ニ於テスル場合ニハ別ニ割増ヲ支辨セサル可ラス

本項中第二行及第三行十日トアルハ二週ノ誤

〇正 誤

ソ東アードン、タンカヅ、ノ各棧橋モ亦該定率ニ據レリ猶本船ニ於テ日曜、休日及ヒ夜間陸揚ヲナシタルトキハ船主ハ特ニ前記定率ノ半額ヲ負擔セサル可カラス唯石炭ノミハ前記ニ反シ陸揚及ヒ藏入藏敷荷渡等悉ク貨主ノ負擔トナリ居レリ輸出品ハ荷主ニ於テ陸上ハ倉庫ヨリ水路ニ依ルモノハ或ハ支那船ヲ用ヒ或ハ上海船會社ノ船ニテ本船々側ニ回漕シ船主ハ單ニ其積込船内人足賃ノミヲ負擔ス

上海船會社ハ五十噸乃至五百噸積ノ鐵製船七十隻曳船小蒸氣船四隻ヲ以テ貨物回漕ヲ營業トナセルカ保險會社ハ何レモ此船ノ貨物ニ對シテハ船保險ヲ附シツ、アルニ拘ハラズ船賃高價ナルヲ以テ清國商人ハ大概其持船ヲ借合セ貨物ノ積込ヲナセリ

貨物積卸船内人足賃ハ時々變動ナキニアラザレドモ大約左ノ率ニ依ル

揚子江航行船

積込 一噸 六仙

揚荷 一噸 六仙

沿岸航海船

積込 一噸 十仙

揚荷 一噸 十仙

石炭陸揚 一噸 六仙

但吳淞附近ニ於テスル場合ニハ別ニ割増ヲ支辨セサル可ラス

焚料石炭ヲ舩積ニテ積込シ場合ニハ左ノ費用ヲ要ス	
舩積積込費	一噸 二錢(兩)
舩積積込費	一噸 二錢(兩)
ハソカ積込	一噸 一錢(兩)
棧橋ニテ積込ノ場合ニハ	
積込費一切	一噸 三錢五分
船舶ニ對スル費用	
噸稅	一噸四ヶ月ニ付 四錢(兩)
水先料	一噸 四弗
棧橋料	一回 六拾五兩 <small>(二百七十五兩以下ノ船舶)</small>
領事手数料	一回 五圓
醫士手数料	一回 八弗
水代	一噸 五十仙
舩板	一日 五十仙

第二 天津

一 白河口ノ形狀
 天津ハ白河口ナル太沽ヲ距ルコト七十五哩ノ上流ニアリ白河口水淺ク干潮ニ於テハ五呎余ノ水深ヲ保ツノミ滿潮ニ於テモ九呎余乃至十四呎余ノ水深ヲ得ルノミ千八百九十八年ノ稅關報告ニ依レバ其最低潮ハ六月ニシテ九呎以下トナルコトアリ七月ニ至リテ九呎トナリ一月二月ハ十呎トナリ八九十十一月ハ高潮ニシテ十三呎九吋ヨリ殆ソド十五呎ニ達スルノ日アリ

二 白河口ヨリ天津迄ノ運送
 此ノ如ク外海ノ水深淺キガ故ニ天津ニ來ルノ舩ハ太沽河口ヨリ五六哩ノ沖合ニ於テ荷役ヲナスヲ常トス吃水深キ大舩ハ太沽沖ニ於テ荷役ヲ了リ白河ニ入ラズ三會社ノ上海天津航路船及ビ其他輕吃水ノ舩ハ多クノ場合ニ於テ河口淺灘ノ水深ヲ量リテ其積載高ノ三分ノ一乃至三分ノ二ノ荷物ヲ舩積ニ移シテ後チ遼流ノ塘沽ニ至ルナリ塘沽ニ入りテ再ビ其殘荷ヲ舩積ニ移ス又タ三會社ハ稀ニ鐵道ニ依リ殘荷ヲ天津ニ送ルコトアリ今ヤ白河ハ減水シテ漁船ノ航通ニ適セズ塘沽ハ天津線路船ノ碇

繋場トナレリ其陸上ニハ北清鐵道ノ規模大ナル停車場アリ其上流ニ新河ト稱スル停車場アリ此所ニ於テモ鐵道ノ水陸連絡ニ關スル計畫頗ル大ナルモノアリ但其設備ハ未ダ整頓セザルナリ(北清鐵道ノ項參看)故ニ天津ニ輸入スル荷物ハ大概太沽沖若クハ塘沽ニテ舩積ニ移シ曳船ニ依リテ白河ヲ遡リ天津バンドニ陸上ケメンテ一シテ敷キテ積重ヲ拖フニ蓆ヲ以テシ貨主ニ着荷ノ通知ヲナス貨主ハ着荷ノ日ヨリ

十日間以内ニ車又ハ船ヲ以テ運搬シ去ルナリ若シ十日ヲ經過スルトキハ其後ノバンド使用料ハ荷主ノ負擔トス而シテ船主ハ舢舨内ニモバンドニテモ荷物引渡ヲ了スル迄ハ晝夜番人ヲ附シテ竊盜ヲ豫防セサル可ラス而シテ前記ノ舢舨費バンド使用料舢舨積込及ヒ陸揚費并ニダンチーマツト等ハ悉ク船主ニ於テ支辨セサル可ラス是ヲ以テ天津ニ於ケル輸入貨物ニ對スル船主ノ負擔ハ實ニ多額ニシテ時ニヨリ運賃額ノ四割ニ達スルコトアリ輸出貨物ハ貨主バンド迄運搬シ來リ船主ハ其費用ヲ以テ舢舨ニ積込ミ塘沽又ハ太沽ニ於テ本船ニ積替ヲナスノ習慣ナリシガ輸出荷物ハ運賃輸入荷物ニ比シテ低廉ニシテ費用ヲ要スルコト甚シキカ上ニ貨物ノ竊取セラル、モノ多クシテ到底其弊ニ耐ヘサルヲ以テ招商局怡和太古ノ三社ハ本年五月斷然輸出荷物ニ對スル舢舨運送ハ全ク貨主ノ負擔トシ同時ニ運賃ノ引下ケヒ行ハタリ而シテ貨主ハ之ニ對シ頻リニ苦情ヲ唱ヘタルモ三社固ク執テ動かサルヨリ爾來荷主ハ已ムナク鐵道又ハ舢舨ニテ塘沽マテ輸送スルコトナリ船主ハ舢舨賃ノ負擔ヲ免ル、コトナレリ然レモ上海天津航路ノ新入者タル獨逸船ハ輸出荷物ノ舢舨賃其他ノ費用輸入荷物ト同様船主持トナシ以テ三會社ニ對抗セリ之ガ爲メ獨逸船ハ輸出荷物ヲ得ルコト多シト云フ

三 白河改良工事

二三年前マデハ輕吃水ノ小瀛船若クハ三會社ノ上海天津航路船ハ天津居留地マデ通航シ得シナリ而シテ白河ノ水俄カニ減シテ瀛船ノ通航ニ支障ヲ生ズルニ至リタルハ人爲ニシテ各所ニ掘割ヲ鑿通シテ白河ノ水ヲ夥多ノ支流ニ分チシコト即チ其

原因ナリ昨年居留地商業會議所ノ提議ニ依リテ二十五萬兩ヲ集メ掘割ヲ閉鎖シ或ハ有用ノ時ニノミ開門スルノ組織トナシ以テ白河ノ水量ヲ舊狀ニ復スルノ計畫ヲ實行スルコト、ナレリ今ヤ其改良工事中ナリ主任技師ハ爾人リンドル氏ニシテ工事ノ落成ハ本年内ニアリ其再ビ瀛船通航ニ支障ナキニ至ルハ二三年後ノニアリト言ヘリ思フニ減水ノ爲メ河中ニ停滯シタル泥土ノ水流ニ依リテ洗除シ去ラル、ハ容易ニアラザルヲ以テナリ今其工事ノ重要ナル點ヲ擧ケレバ天津ノ上流ニ「ルタ」ト稱スル所アリ此所ニ大ナル掘割アリ此掘割ヨリ白河ノ水ノ流レ去ルノ量ハ最も多クシテ其吐口ニ於ケル水深ハ三十呎ニ及ベリ若シ此掘割ヲ閉鎖スルトキハ天津ノ水量ハ著シク増加スベシ此外天津ノ下流ニ二大掘割アリ右三大掘割ノ閉鎖工事ニシテ成ラハ白河ノ水流ハ殆ンド復舊スベシ白河ノ水量舊狀ニ復スルトキハ漸次ニ泥土ヲ流下シ河口ヨリノ潮勢ハ天津バンドニ達シ三年前ノ如ク二呎乃至三呎ノ干満ヲ見ルニ至ルベシト云フ

四 白河改良工事費

白河改良工事費ハ前記二十五萬兩ニシテ此内十萬兩ハ直隸省ヨリ支出セリ天津條約十五條ニ依リ支那政府ハ噸稅ヲ徵集スルノ權利ヲ有スルト同時ニ港ノ改良ヲナスノ義務アルヲ以テナリ其他ノ十五萬兩ハ居留地商人ノ間接負擔タリ即チ天津ノ居留地役所ハ香港上海銀行ヨリ六朱利付十二年償還ノ約ヲ以テ十五萬兩ノ借入ヲナシ同時ニ支那稅關ノ同意ヲ得テ總テ居留地ニ陸揚スル所ノ貨物ニ對シ左記ノ埠頭稅ヲ課シ以テ右借入金及其利子ヲ償還スルノ方法ヲ定メタリ

正稅貨物	正稅ノ百分ノ一
半稅貨物	半稅ノ百分ノ二
阿片	一擔 三錢(兩)
紅茶及綠茶	同 一分二厘五毛
磚茶	同 四厘
露國仕向紅茶及綠茶	同 三厘
全 磚茶	同 二厘

但シ貢米及官用品ハ埠頭稅ヲ徵收セス
 白河改良工事ハ果シテ能ク其目的ヲ達スルヤ否ヤ今日ニテハ疑問ナリ當局技師其
 直接關係者及ヒ港長ノ如キハ其成效ヲ疑ハザルモノ、如シ然レモ世評ハ區々ニシ
 テ寧ロ其成效ヲ疑フモノ、如シ本工事ニシテ畢ニ成效セザラン乎天津ニ來ルノ瀛
 船ハ塘沽ヲ以テ其終點トナサ、ルヘカラス居留外商間ニ於テモ本工事失敗ニ歸ス
 ルトキハ塘沽ヲ開テ外國貿易港トナスノ意向ハ定マレルモノ、如ク亦タ支那政府
 ノ同意ヲ得ルコト難キニアラザルナリ故ニ白河改良工事ノ成否ハ北清貿易ニ利害
 ナ有スルモノ殊ニ航業者ノ常ニ深ク注目シテ研究ヲ怠ルベカラザルノ緊要問題ナ
 リトス船舶ノ構造モ天津バンドニ適航セシムルト塘沽ニ止ムルトニ依テ變更スル
 ナリ(上海天津航路ノ部參看)陸上ノ設備モ天津バンドニ於テスベキヤ塘沽ニ於テナ
 スベキヤモ此問題ノ最終決定ニ待ツノ要アルナリ

五 天津ノ地所

白河改良工事其目的ヲ達スルモノトセバ天津ニ於テ棧橋及倉庫用地所購入ノ要ア
 ルヤ勿論ナリ太沽塘沽ヨリ天津迄ノ水陸輸送費比較表ニ揚グルガ如ク鐵道又ハ舢
 船ヲ使用スルトキハ其運送費八十哩以内ノ距離ニ於テ一擔十四五仙ヲ要スルモ本
 船天津バンドニ達スルトキハ僅カニ七仙五厘余ニテ足ルナリ輸入貨物ノ輸送ニ於
 テ斯ノ如キ利益アルノ外ニ尙ホ三種ノ大利益アリ輸出荷物ニ輸送費ヲ要セザルナ
 リ是一ノ利益ナリ直ニ天津バンド迄適航スルトキハ現今ノ如ク舢舟ヲ得ルカ爲メ
 ニ時日ヲ空費スルコト少キナリ舢舟ニ積替ヲナサズ或ハ場合ニ依リ之ヲ積替スル
 モ一部分ノ荷物ニ止マルヲ以テ其損傷盜難等ノ損失ヲ減スルノ利益アリ故ニ天津
 ニ棧橋倉庫ノ設備ナクンバ他ニ對抗シテ定期航路ノ開始ハ行フベカラズト云フモ
 可ナリ而シテ瀛船ノ碇繫ニ最便ノ河岸ハ英租界ノ地ナレドモ三會社既ニ長ク專領
 シテ殆ンド余地ナシ佛租界ノ河岸亦タ適當ノ地ナキガ如シ我國ノ新ニ得タル居留
 地ハ佛租界ノ上流ニ在リテ商業繁盛ノ區ナレドモ河幅狹クシテ支那船ノ碇繫スル
 モノ頗ル多キノミナラズ其下流ニ北清鐵道ノ天津停車場ト天津市街ト相通ズルガ
 爲メ設ケタル舢橋アリ支那船航通ノ爲メ之ヲ開閉セリト雖モ瀛船ノ航通ハ頗ル困
 難ナルベシ故ニ日本居留地ニ瀛船ヲ碇繫スルハ寧ロ不可能ノ事ニ屬スルナリ政
 府モ我居留地ノ到底瀛船ヲ碇繫スルノ用ヲナサザルヲ知リテ更ニ航業上必用ノ居
 留地トシテ獨逸租界ノ下流ニ六萬坪ノ居留地ヲ撰定シタリ其水岸約三十呎ヲ有セ
 リ然レモ天津市街ヲ距ルコト甚ダ遠ク今日ニテハ頗ル不便ノ地タリ故ニ我社ニ於
 テ天津航路ヲ開クトセバ其棧橋倉庫用地所ハ獨逸租界ノ上流ニ求ムルノ外ナシ獨

租界ノ上端ハ英租界ト相接シ現今既ニ瀛船貨物ノ荷揚所トシテ使用セル所ナリ其地價ハ一畝(我二百坪餘)一千五百兩内外ナリト稱ス(第四圖參看)

假令白河ハ改良ノ功ヲ奏セス又々定期航海ヲ開カズトモ多數ノ船隻ヲ天津ニ送ルトキハ天津バンドニ土地ヲ有スルヲ利益ナリトス現今白河ハ瀛船ノ航運ナキモ塘沽ヨリ鐵道ニ依リ天津ニ達スルノ荷物ハ極メテ僅少ニシテ大部分ハ舢舨ニ依リ天津ニ送ルナリ而シテ白河開水後一二ヶ月ノ間及ビ閉河前ニ於テハ天津ニ於ケル沿岸ノ地ハ荷物ヲ以テ填塞シ容易ニ陸揚ノ地ヲ得ベカラズ又々平時ニ於テモ一定ノ荷揚場ヲ有セザルトキハ營業上敏活ノ働キヲ欠クノミナラズ貨主ニ對スルノ信用亦々厚キヲ得ザルノ不利益アルナリ

六 塘沽ノ地所

招商局、太古、怡和、「メルチャルス」ノ如キ礦務局ノ如キ皆ナ塘沽ニ於テ棧橋用地所ヲ買得セリ我社ニ於テモ他日ノ爲メ急ニ之ヲ購入スベキヤ否ヤ卑見ヲ以テセバ急ニ之ヲ購入スルノ要ナキガ如シ白河改良ノ工事成功セバ其無用タルヤ論ナシ萬一白河改良工事成ラズトスルモ滿船ニテ塘沽ニ入ルノ場合ハ寧ロ少クシテ港外ニテ舢舨ノ便ヲ借り三分ノ一乃至二分ノ一ノ積載貨物ハ天津ニ送ラザルベカラズ残り三分ノ二乃至二分ノ一ノ貨物モ亦々塘沽ニ於テ舢舨ニ積替ヘ天津ニ送ルコト、セバ鐵道ニ依ルヨリ廉ナルハ水陸運送費用計算ニ於テ示スガ如シ若シ此上鐵道ノ輸送方法ニ改良ヲ加フルノ時到來セシカ鐵道所有ノ棧橋ヲ利用スルコト寧ロ利益ナルベシ季節ニ依リ四五十隻ノ瀛船同時ニ荷役ヲナストキハ鐵道棧橋ニ余地ナカルベシト

雖モ此場合ニ於テハ舢舨ヲ利用スルモ蓋シ費用ニ於テ大差ナカルベシ之ヲ要スルニ白河改良ノ工事成ラザルノ結果塘沽ニシテ北清貿易ノ要港トナリ天津ノ繁昌ヲ奪フノ時來ラバ塘沽ニ航業用地所ヲ有スルノ利益ハ勿論ナレドモ是レ遠キ將來ノ事ニ屬スルナリ故ニ今急ニ塘沽ノ地所ヲ購入スルノ要ナキヲ信ズ(第五圖參看)

七 水陸運送費ノ比較

- 一本比較表ハ本船ヨリ天津バンド迄貨物一擔ニ對スル費用ヲ計算ス
- 一計算ニ便利ナラシムル爲メ貨物ハ全部綿糸トシテ計算ス
- 一船舶ハ舞子丸ヲ標準トシ貨物積載量ヲ千噸トシ大ノ綿糸(四十把入り三個一噸計三千個積載セルモノトシテ計算ス但シ綿糸ハ一個重量三百斤トス
- 一本計算ハ不定期航船ノ費用ヲ示セルモノナリ定期船ニシテ且ツ其出入回數多キトキハ天津揚荷費其他ニ於テ多少ノ節約ヲナスコトヲ得ベシ
- 一貨物運送費ハ左記ノ各項ニ付キ計算比較ス
- 一太沽ニテ貨物全部ヲ舢舨ニ轉載スル場合
- 二太沽ニテ半艘ノ荷物ヲ舢舨ニ積移シ塘沽ニテ残りノ半艘荷ヲ舢舨ニ轉載スル場合
- 三太沽ニテ半艘ノ貨物ヲ舢舨ニ残り半艘荷ハ塘沽ヨリ鐵道ニテ天津ニ運送スル場合
- 四塘沽ニテ貨物ノ全部ヲ舢舨ニ轉載スル場合
- 五塘沽ニテ貨物ノ全部ヲ棧橋ニ陸揚シ鐵道ニテ天津ニ運送スル場合

六天津迄本船ニテ運送スル場合

第一太沽ニテ貨物全部ヲ舩船ニ轉載スル場合

一金三十六弗六十三仙	ムーリソングヒー	舞子丸登簿噸數八百十四噸ニ對シ噸四
一金四十六弗六十七仙	バンドヒー	船載貨物千噸ニ對シ三十五兩七十五兩
一金七百二十弗	舩船賃	一擔八仙三千個(一個三百斤)九千擔
一金四十八弗七十五仙	舩中人足	一個十三文三千個八百文一弗トシテ計
一金二百七十弗	天津揚荷費	一擔三仙
一金十	天津揚荷費	二人五日、一人一日一弗
一金四	番人備賃	
一金五	マツトダンチー使用料	
一金五	領事手數	
一金三	代理店手數	
一金四	ボソツイン使用	一日一弗五十仙三日間

金千二百二十七弗五仙

九千擔ニ對シ一擔十三仙六三三八

第二太沽ニテ半艘ノ荷物ヲ舩船ニ積取リ殘リ半艘ハ塘沽ニテ舩船

ニ轉載スル場合

一金三十六弗六十三仙	ムーリソングヒー	第一項參看
一金七	舩船賃	一擔八仙九千擔
一金二十四弗三十七仙	太沽舩中人足	千五百個、一個十三文、八百文一弗
一金十八弗七十五仙	塘沽舩中人足	千五百個、一個十文、八百文一弗
一金二百七十弗	天津揚荷費	一擔三仙九千擔
一金拾	番人備賃	
一金四	マツトダンチー使用料	
一金四	ボソツイン使用	一日一弗五十仙
一金百	水先料	入港十三呎出港十呎一呎五弗トシテ計算ス
一金五	領事手數	
一金三	代理店手數	

計金壹千三百二十六弗四十二仙

九千擔ニ對シ一擔十四仙七三八

第三太沽ニテ半艘ノ貨物ヲ舩船ニ殘リ半艘ヲ塘沽ニテ鐵道ニヨリ運送スル場合

一金三十六弗六十三仙	ムーリソングヒー	第一項參看
一金四十六弗六十七仙	バンドヒー	第一項參看
一金三百六十弗	舩船賃	四千五百擔一擔八仙
一金二十四弗三十七仙	太沽舩中人足	千五百擔一個十三文

一金三	十	弗	塘沽棧橋陸揚	千五百擔一個十六文
一金三十七	弗五十	仙	鐵道積込費	千五百個一個二十文
一金三百	十五	弗	鐵道運賃	四千五百擔一擔五十六文
一金百三	十五	弗	天津淨船揚荷	四千五百擔一擔三仙
一金二十六	弗六十六	仙	鐵道棧橋ムーリングヒー	二十兩七十五兩ノ換算
一金三十二	弗五十六	仙	全棧橋料	登簿噸數ニ對シ一噸三分
一金百四	十	弗六十二	停車場ヨリ對岸迄苦力賃	一個七十五文千五百個
一金十	弗	番人備賃		
一金三	弗	ボソツン		二日間一日一弗五十仙
一金四	十	弗	マツトダンチーソ	
一金百	十	弗	水先料	入港十三呎出港十呎
一金五	弗五十	仙	領事手數	
一金三	十	弗	代理店手數	
計金壹千三百九十三弗五十一仙				
九千擔ニ對シ一擔十五仙四八三四				
第四塘沽ニテ貨物ノ全部ヲ淨船ニ轉載スル場合				
一金三十六	弗六十三	仙	ムーリングヒー	登簿噸數八百十四噸一噸四仙五
一金四十六	弗六十七	仙	バンドロヒ	積載貨物千噸ニ對シ三十五兩七十五兩ヲ以テ換算ス

一金七	百二十	弗	淨船賃	九千擔一擔八仙
一金三十七	弗五十	仙	塘沽人足賃	三千個一個十文
一金二百	七十	弗	天津揚荷費	九千擔一擔三仙
一金十	弗	番人備賃		
一金四	弗五十	仙	ボソツン	三日間
一金四	十	弗	マツトダンチーソ	
一金百	二十五	弗	水先料	入港十五呎出港十呎ト假定ス
一金五	弗五十	仙	領事手數	
一金三	十	弗	代理店手數	
計金千三百三十弗八十仙				
九千擔ニ對シ一擔十四仙七八六六				
第五塘沽ニテ貨物全部ヲ棧橋ニ陸揚シ鐵道ニテ運送スル場合				
一金二十六	弗六十六	仙	鐵道棧橋ムーリングヒー	一回二十兩七十五兩換算
一金三十二	弗五十六	仙	全棧橋料	登簿噸數八百十四噸ニ對シ一噸三分
一金六	十	弗	棧橋揚荷費	三千個一個十六文
一金七	拾五	弗	貨車積込迄	三千個一個二十文
一金六	百三十	弗	鐵道運賃	九千擔一擔五十六文
一金三百五十六	弗二十五	仙	天津對岸迄持運賃	三千擔一個七十五文

一金十	弗	番人備賃	
一金四	弗	マツトマンチーシ	
一金百	二十五弗	水先料	入港十五呎出港十呎
一金五	弗	領事手数	
一金三	弗	代理店手数	

計金千二百九十五弗九十七仙

九千擔ニ對シ一擔十四仙三九九六

第六本船ニテ直チニ天津ニ運送スル場合

一金三十六	弗六十三仙	ムーリソングヒー	第一項參看
一金四十六	弗六十七仙	バンドヒ	第一項參看
一金二	百三十弗	水先料	上航十三呎下航十呎一呎十弗
一金二	百七十弗	揚荷人足賃	九千擔一擔三仙
一金四	弗五十仙	ボンツーン	三日間一日一弗五十仙
一金拾	弗	番人備賃	
一金四	弗	マツトマンチーシ	
一金五	弗五十仙	領事手数	
一金三	弗	代理店手数	

計金六百七十八弗三十仙

九千擔ニ對シ一擔七仙五三三三

七 運送費比較表

積替及ヒ陸揚地	貨物種類及員數	運送費	一擔ニ對スル運送費
一 太沽ニテ全部舢舨積替	綿糸九千擔	一、二二七、〇五	一三、六三三八
二 太沽及塘沽ニテ半舢舨積替		一、三二六、四二	一四、七三八〇
三 太沽ニテ半舢舨積替		一、三九三、五一	一五、四八三四
四 塘沽ニテ全部舢舨積替		一、三三〇、八〇	一四、七八六六
五 塘沽ニテ全部鐵道積替		一、二九五、九七	一四、三九九六
六 天津迄本船直航ノ場合	全	六七八、三〇	七、五三三三

前記第一ノ場合ハ甚ダ少シ費用少キガ知シト雖モ荷役ノ爲メ時日ヲ費スコト多シ故ニ結局不利益ナリトス第五ノ場合ハ殆ンド實行セラレタルコトナシ一ニハ鐵道ノ設備不完全ナルト又ターニハ滿船ニテ常ニ太沽淺洲ヲ通過スルコト難キヲ以テナリ第六ハ最便ノ方法ナレドモ未來ノ事ニ屬ス第四ノ方法ハ高潮ノ時ニ於テ屢々行ハル、ナリ第三ノ方法實行セラレタルコトアリト雖モ埠口稀ナリ但シ小部分ノ急要貨物ヲ陸送スルコトハ屢々行ハル、ナリ第二ノ場合ハ現今普通ノ運送方法ナリ之ヲ以テ最便最利トス但シ太沽及塘沽ニ於ケル舢舨ノ積替量ノ割合ハ一定セサルコト勿論ナリ

八 白河ノ舢舨

太沽又ハ塘沽ヨリ天津マテノ貨物運送ハ水路ニ依ルノ利益ナルコト前掲計算表ノ如シ然ルニ水路運送ノ欠點トシテ非難スベキモ亦タ少シトセズ第一舢舨内ニ於テ盜難多キコト第二舢舨業ハ一會社ノ獨占ナルヲ以テ不親切ナルコト第三舢舨ノ欠乏ヲ告グルノ場合多キコト而シテ舢舨舟内盜難ノ瀕々タルハ事實ニシテ衆人ノ異口同音ニ訴フル所ナレドモ相當ナル監督者ヲ撰ンテ乘組マシムルトキハ防禦ヲ得ラレザルニアラズ現ニ三井物産會社ノ如キ監督ノ方法ヲ嚴ニセルガ故ニ衆人ノ言フカ如キ損害ヲ受ケズト云ヘリ竊盜ノ多キハ鐵道運送ニ依ルモ同様ニシテ現今ニテハ鐵道ノ方却テ其損害多シト聞ク第二ノ非難タル不親切ノ點ハ實際談ナリ然レモ一方ニ於テハ監督者ヲ乘込マシメ他ノ一方ニ於テハ舢舨會社ト特約ヲ結ブトキハ甚シキ不便ナカルヘキヲ信ス現ニ我社ノ代理店主ハ舢舨會社ノ取締役ニシテ我社舢舨ノ着日一定セズ他會社ニ讓ラザル丈ノ便利ノ契約ヲナスコトヲ得ベシト云ヘリ舢舨會社ニ於テモ招商局、太古、怡和、三會社ノ如キ多數ノ常航船ヲ有スルモノニ向テ特別ノ便利ヲ與ヘ風來船若クハ少數定航船ニ對シ之ト同一ノ便利ヲ與ヘザルハ寧ロ當然ノ事ニシテ咎ムベキニアラズ三會社船ノ舢舨ヲ得ルノ容易ニシテ隨テ出入港ノ手配迅速ナルテ羨ムノ余リ舢舨會社ニ向テ苦情ヲ唱フルハ不可ナリ第三舢舨ノ欠乏ハ事實ナリ現時舢舨會社ハ二十九隻ノ鐵製舢舨其運搬力約一萬五千余噸ヲ有スレドモ太沽及塘沽沖ニ輻湊スル多數船隻ニ満足ヲ與フルニ足ラズ少數ノ舢舨ヲ間斷ナク使用スルハ多數ノ舢舨ヲ以テ各船ニ満足ヲ與フルヨリ舢舨會社ノ利益タルヤ勿論ナリ是レ獨占事業ノ弊ナリ今ヤ舢舨會社ハ凡千噸積ノ舢舨數隻ノ新造

中ニシテ天津貿易ノ増進ニ隨ヒ其船隻ヲ多少増加セルハ事實ナレドモ天津ニ來ル總テノ船ニ對シテ敏速ニ之ヲ供給シ得ルノ程度マデニ達セザルナリ蓋シ獨占事業ノ弊トシテ一般船舶ノ不便ハ問ハズシテ單ニ其收益ノ多カラシムコトヲ計ルハ免ルベカラザル所ナレドモ亦タ季節ニ依リテ運送ニ繁閑アリ運送最ニ頻繁ナル時ニ於テ要スル丈ケノ設備ヲナサシカ其最モ閑ナルトキハ勿論平時ニ於テ不利益ナリ果シテ然ラバ假令ヒ舢舨事業ハ獨占ニアラズトスルモ總テノ季節ニ於テ舢舨ノ供給充分ナラシムルハ營利會社タル舢舨會社ニ對シテ到底望ムベカラザル所ナラシムトナスモノアリ何レノ季節ニ於テモ充分ナル舢舨ノ供給ヲ得ント欲セバ自ラ舢舨ヲ有スルノ外ナシ或ハ舢舨營業ヲ企ツルモ利ナラシムト然レモ舢舨ヲ有スルトキハ曳船ナルベカラズ修繕工場ナルベカラズ又タ小船渠ヲ有スルノ必要モ起ルベシ何トナレバ天津太沽ニ於テハ舢舨會社ノ外ニ私立ノ船渠及工場ヲ有スル者ナケレバナリ工場及ビ船渠ヲ有スルモ自己ノ便利ノ外ニ一般舢舨營業ヲナスノ利ヲ見ルニ至ルベシ舢舨營業ヲ開カシムルカ今ノ舢舨會社ト競争セザルベカラズ是レ利少クシテ寧ロ其煩ニ耐ヘザル所ナリ故ニ我社ノ如キ天津航路ヲ開クトキハ今ノ舢舨會社ニ對シテ出來得ル丈ケ便宜ノ方法ヲ取ルヲ以テ最良策トナス現ニ獨逸人ノ近來開始セシ三隻ノ上海天津航路船ノ如キ舢舨會社ノ舢舨ヲ使用シテ著シキ不便ヲ感ゼルヲ聞カズ我社ノ天津行船モ増加スルニ從ヒ舢舨會社ニ對スルノ勢力増加シ便宜ノ方法ヲ協定スルコト難キニアラザルベシ之ヲ要スルニ舢舨會社ニ對スル苦情ノ最モ大ナルモノハ風來船々主ノ口ニスル所ナルガ如シ

九 船會社

前記ノ如ク天津太沽問貨物回漕ニハ必ス船會社ヲ要スルヲ以テ船會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ會社ハ名稱ヲ太沽曳船船會社ト稱シ天津ニ本店太沽ニ出張店ヲ有シ資本金五十万兩ニシテ已ニ設立以來十ヶ年ヲ經過シ昨年ノ如キハ年一割ノ配當ヲナセリ其所有船ハ曳船十四隻船二十九隻ニシテ外ニ太沽ニ鐵工所ヲ設ケ頗ル大仕掛ノ營業ヲナセリ同社ハ招商局、怡和、太古、ト特約アルヲ以テ船舶輻湊ノ場合ニハ屢々三社船ヲ先ニシ他ノ船舶ヲ後ニスルノ傾向アリ又其船會社ニ積載シタル貨物ニ對シテハ殆ンド無責任ニシテ船内ノ取締行届カサルニヨリ貨物ノ竊取セラル、モノ夥シク而シテ其不足貨物ニ對シテハ容易ニ辨償ヲナスコトナシ必竟バンド迄ハ船主荷主ニ對シ直接ニ責ヲ負フモノナルヲ以テ荷主ハ船主ニ對シ其損害ノ要償ヲ求メ爲メニ船主ノ損失トナルモノ少ナカラズ而シテ會社ハ白河航通ノ利益ヲ獨占シ居ルヲ以テ如何トモスルヲ能ハズ空シク其爲スカ儘ニ放擲セサルヲ得サル有様ナリ船會社ハ太沽天津問塘沽天津問何レモ百斤八仙ニシテ貨物ノ斤量ハ種類ニ依リ豫メ規定シ燐寸ハ二百斤綿糸ハ三百斤ト定メ居リ又硫酸ノ如キ危險物ハ一箱ニ付五拾仙ヲ徵收セリ

船會社ノ所有曳船及ヒ船名左ノ如シ
曳船小 遠船

船名	登簿噸數	船名	登簿噸數
ベネチア	八〇	イゼ	三三
フアン	七〇	オム	九

船名	登簿噸數	船名	登簿噸數
リバー	五〇	カロー	六一
ハリー	二〇	ヒュー	五六
リッチ	一〇	フアン	九
リッチ	一〇	フアン	九
フアン	四〇		

船名	登簿噸數	船名	登簿噸數
キヤメ	二五九	ベリ	三二六
コロン	八三	ペリ	三〇五
ヤク	八三	ペリ	三〇五
スウ	五〇	マイン	三〇五
ダク	五〇	マイン	三〇五
ヤク	七五	マイン	三〇五
カザ	七五	マイン	三〇五
シム	八七	マイン	三〇五
ロム	二〇	マイン	三〇五
カイ	二〇	マイン	三〇五
ラック	二七	マイン	三〇五
ハック	二七	マイン	三〇五
ワック	二九	マイン	三〇五
トロ	二六	マイン	三〇五
トク	二八	マイン	三〇五
合計	二八一	合計	七、七六九

昨年即チ千八百九十八年度全社ノ決算報告ハ左ノ如シ

太沽曳船船會社第十回株主總會報告

千八百九十九年二月二十八日天津俱樂部ニ於テ太沽曳船船會社千八百九拾八年度即チ第十回株主總會開會各取締役列席ノ上報告シタル當年度決算報告ハ左ノ如シ

即チ下條ニ掲クル計算ニ見ユル如ク會社營業ノ收益ハ十三万六千三百三十四弗十
 四仙ニシテ外ニ「シユルタン」號ノ修繕賣却ヨリ生シタル利金九万二千五百五十六弗六
 十仙ヲ加ヘ計金二十二万七千五百九十弗七十四仙トナル内當年七月(年四朱)ノ配
 當(金)二万四千五百七十一弗船賣却金配當年(一割四朱)八万六千弗及ヒ借入金并
 ニ借越金ニ對スル諸利子及營業ノ諸費用ト外ニ減價償却金トシテ四万七千八百
 弗九十八仙ヲ控除シタル純益六万八千八百八十弗ノ分配案ハ左ノ如シ

- 取締役及監査役賞與
- 株主配當金(年六朱)
- 訴訟入費引當金
- 後期繰越金
- 一万三千八百七十八弗九仙
- 五千六百三十四弗二十九仙
- 三万六千八百五十七弗十四仙
- 四万七千七百四十四弗二十八仙

右配當金ハ昨年七月ノ別途配當金ト合シテ年壹割ニ該當シ外ニ「シユルタン」號賣
 却ニ對シテ年一割四朱ノ分配ヲナシタリ以上諸計算ノ結果當社積立金ハ左ノ如シ

- 十萬弗
- 積立金
- 減價償却金
- 配當準備積立金
- 保險積立金
- 繰越金
- 三十二万二十七弗
- 二萬弗
- 三万二千三百六十五弗十四仙
- 一万三千八百七十八弗九仙
- 計金四十八万六千二百七十弗二十三仙

○營業勘定

支出之部

- 十萬六千八百三十一弗九十六仙 曳船船諸費用
- 七萬二千二百五十二弗九十八仙 船諸費用
- 六萬三千五百四十七弗八十四仙 岡洲及塘沽人足費用
- 二萬七千八百十九弗三十七仙 岡洲見番船、燈明船、曳船、船ニ關スル諸費用
- 三百五十八弗五十八仙 修繕諸費用
- 一万四千六百弗四十仙 訴訟及辨償諸費用
- 二萬八千五百九十九弗七仙 各店經費
- 十三萬六千三百三十四弗十四仙 損益勘定
- 計四十四萬九千三百四十四弗三十四仙

收入之部

- 三十五萬九千九百三十三弗四十六仙 船收入
- 二萬四千三百二十五弗九十六仙 曳船收入
- 五萬千四百六十弗四十九仙 人足賃收入
- 三千二百七十三弗八十二仙 倉庫勘定
- 三千六百九十二弗三十一仙 船渠工作場勘定
- 三千七百九十五弗六十八仙 石炭勘定
- 十一弗 株券書換手數料
- 二千五十八弗一仙 爲替勘定

七百九十三弗六十一仙 船渠勘定
合計四十四万九千三百四十四弗三十四仙

○損益勘定

損失之部

一万三千三百六十四弗三仙
五千八百四十三弗九仙
二万四千五百七十一弗四十三仙
八万六千弗
四万七千八百九十八仙
六万八千八百八十仙

借入金及銀行借越金
社債利子

別當配當金

シユルタン號賣上代配當金

船舶減價償却

當期純益

收益之部

七千六百五十三弗二十六仙
三千四百十九弗三十三仙
九万二千五百五十六弗六十仙
十三万六千三百三十四弗十四仙
合計二十三万八千六百六十三弗三十三仙

前年度繰越金

前年度訴訟引當金未濟勘定

シユルタン號賣揚代金

營業勘定

○貸借對照表

負債之部

六十一万四千二百八十五弗七十一仙 株金四十三万兩

二十二万六千八百五十七弗十四仙 社債十五万八千八百兩

拾万弗

積立金

二万弗

配當準備積立金

三万二千三百六十五弗十四仙

保險勘定

三十二万二十七弗

減價償却金

五万弗

借入金

五百十八弗五十七仙

株金利子未拂金

六万八千八十三弗八十仙

損益勘定

合計百四十二万五千三百三十七弗三十六仙

資産之部

十五万二千三百三十三弗八十六仙

所有土地家屋價格

内

四千九百八十二弗五十八仙

棧橋

四萬五千四百弗

船渠

四千七百八十四弗八十七仙

貯炭所見番所小船檣壁價格

六千二百弗

太活土地價格

一万七千八百五十九弗三十仙

太活建物價格

一万六千九百七十七弗五仙

船渠工場價格

五千四百八十七弗八十一仙

太活天津器具價格

五万六千七百二十二弗二十五仙 天津所有土地建築價格
 七百四十二弗三十二仙 當年度諸物件增加價格
 八千八百九十弗二十七仙 全 天津土地建物增加價格
 百八万六千六十三弗十七仙 船及曳船價格

内

三十五万二千四百七十弗二十九仙 曳船小蒸瀉船十四隻價格
 七十一万九千五百六十二弗八十八仙 船二十九隻價格
 六万六千八百二十八弗七十九仙 工場器具價格

内

四万八千八百八十三弗七仙 船渠工場諸器具價格
 一万六千四百四十二弗二十二仙 購入諸器具價格
 二千五百二十八弗五十仙 破船器具勘定
 六万六千六百十九弗七十四仙 倉庫勘定
 四千八百九十三弗八十八仙 石炭勘定
 二千二百七十六弗三十仙 貸金勘定
 五千六百三十四弗二十九仙 預金勘定
 四万六千八百八十七弗三十三仙 現金勘定

内

三万三千三百三十八弗九十八仙 香港上海銀行弗銀預金

六千六百八十四弗二十三仙 全 兩銀預金
 五百四弗九十六仙 金庫在高
 百五拾五弗十六仙 太沽支店在高
 合計百四十二万五千百三十七弗三十六仙

十 各港間貨客運賃

天津ハ輸入港ニシテ輸出品少シ故ニ輸出品ノ運賃ハ輸入品ノ運賃ニ比シテ著ルシ
 ヲ低廉ナリ左表ノ如シ

天津上海間貨物運賃

牛	骨	一擔	、一二	鷺	鷺	毛	一擔	、一二
粗	毛	一噸	二、六五	六	(壓迫シタル分)	毛	一噸	一、二五
空	器	一噸	一、二〇	羽	毛	毛	一噸	一、二五
陶	器	一噸	二、六五	馬	鬚	毛	一擔	、二二
繭	重	一擔	、二二	毛	髮	毛	一擔	、六三
貴	品	從價	万分ノ六十五	獸	皮	皮	一擔	、二〇
獸	皮(壓迫ノ分)	一噸	二、〇〇	麥	稈	具	一噸	一、八四
鳥	毛	一噸	二、六五	雜	貨	貨	一噸	二、六五
全	箱	一噸	二、六五	寶	貨	貨	從價	万分ノ二十二半
黃	麻	一擔	二、六五	小	麥	麥	一擔	、一二

輕品	一噸	二、六五	羊	毛	一擔	一、二八
綫	一噸	三、一〇	全	(壓迫ノ分)	一噸	一、二五
裘	一噸	四、〇〇	黃麻	(壓迫ノ分)	一噸	一、一〇

右ハ本年五月十二日船賃貨主負擔ニ改正シタル時變更シタルモノニシテ續時ニ依リ多少ノ増減アリトス

天津ヨリ牛莊及ヒ芝罘ニ至ル貨物運賃ハ概シテ前記定率ノ四分ノ三ヲ標準トナセ

船客運賃 清國人船客ノ運賃ハ時ニ變動スルモノナレ
前記ノ率ニ據ル

天津	上海間	外國人上等	清國人中等	清國人下等
天津芝罘間	四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一一、三〇〇
天津牛莊間	二〇、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	三、二五〇
天津牛莊奇港間	三五、〇〇〇			五、〇〇〇
天津牛莊直航間	一五、〇〇〇			三、二五〇
天津膠洲灣間	四〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一一、三〇〇

十一 船舶ニ對スル費用

天津入港ノ船舶ニ要スル費用ハ左ノ如シ

水先料 一呎 五弗
外海ヨリ塘沽迄 一呎 五弗

外海ヨリ天津迄 一呎 十弗
塘沽ヨリ外海迄 一呎 五弗
天津ヨリ外海迄 一呎 十弗
轉 一呎 二弗
ムーリングフィー 一噸ニ付 墨銀四仙五
船登簿噸數 一回ニ付 一弗五十仙
バンドフィー 船 一回ニ付 一弗五十仙
漁船搭載貨物噸數ニ對シ
五百噸以下 二十五兩
五百噸以上千噸迄 三十兩
千噸以上 三十五兩
ボツツーン 一隻 一弗乃至一弗五十仙
通船(太沽塘沽間) 一回往復四弗
太沽鐵道棧橋揚荷ノ場合
ムーリングフィー
漁船 一回 二十兩
帆船 一回 十兩
沙船 一回 五兩

棧橋料

漁船登簿噸數 一噸 三分(兩)

但シ陸揚貨物三百噸ニ至ラサル場合ニハ其陸揚貨物ノ噸數ニ對シ前記ノ割合ヲ以テ徴収ス

起重器使用料

二十五噸起重器 五時間迄 二十兩

五噸起重器 五時間以上一時間 三兩

五時間迄 三兩五錢

五時間以上一時間 七錢

鐵道貨物積卸費

塘沽棧橋ヨリ鐵道貨車迄 一個 二十文

天津停車場ヨリ對岸倉庫迄 一個 七十五文

漁船貨物積卸費

太沽外海船中人足 一個 十三文

塘沽全 一個 十文

塘沽棧橋陸揚 一個 十六文

十二 各船最初入港最終出港月日并ニ船名

千八百九十六年	月	日	船名	月	日	船名
三月	五日	ハイア	三月	十四日	シンユ	

千八百九十七年	三月	四月	五月	六月	千八百九十八年	二月	三月	千八百九十九年	三月
三月四日	カレンガ	十二月十八日	シンエンキ	六月六日	二月十八日	ウーサ	三月四日	三月四日	クワンピ
三月五日	タクサ	十二月九日	リイー	六月七日	二月十九日	カレンガ	三月五日	三月五日	クワンピ
三月六日	ナヤ	十二月十日	シンエンキ	六月八日	二月二十日	ウーサ	三月六日	三月六日	クワンピ
三月七日	ナヤ	十二月十一日	シンエンキ	六月九日	二月二十一日	ウーサ	三月七日	三月七日	クワンピ
三月八日	ナヤ	十二月十二日	シンエンキ	六月十日	二月二十二日	ウーサ	三月八日	三月八日	クワンピ
三月九日	ナヤ	十二月十三日	シンエンキ	六月十一日	二月二十三日	ウーサ	三月九日	三月九日	クワンピ
三月十日	ナヤ	十二月十四日	シンエンキ	六月十二日	二月二十四日	ウーサ	三月十日	三月十日	クワンピ
三月十一日	ナヤ	十二月十五日	シンエンキ	六月十三日	二月二十五日	ウーサ	三月十一日	三月十一日	クワンピ
三月十二日	ナヤ	十二月十六日	シンエンキ	六月十四日	二月二十六日	ウーサ	三月十二日	三月十二日	クワンピ
三月十三日	ナヤ	十二月十七日	シンエンキ	六月十五日	二月二十七日	ウーサ	三月十三日	三月十三日	クワンピ
三月十四日	ナヤ	十二月十八日	シンエンキ	六月十六日	二月二十八日	ウーサ	三月十四日	三月十四日	クワンピ
三月十五日	ナヤ	十二月十九日	シンエンキ	六月十七日	二月二十九日	ウーサ	三月十五日	三月十五日	クワンピ
三月十六日	ナヤ	十二月二十日	シンエンキ	六月十八日	二月三十日	ウーサ	三月十六日	三月十六日	クワンピ
三月十七日	ナヤ	十二月二十一日	シンエンキ	六月十九日	三月一日	ウーサ	三月十七日	三月十七日	クワンピ
三月十八日	ナヤ	十二月二十二日	シンエンキ	六月二十日	三月二日	ウーサ	三月十八日	三月十八日	クワンピ
三月十九日	ナヤ	十二月二十三日	シンエンキ	六月二十一日	三月三日	ウーサ	三月十九日	三月十九日	クワンピ
三月二十日	ナヤ	十二月二十四日	シンエンキ	六月二十二日	三月四日	ウーサ	三月二十日	三月二十日	クワンピ
三月二十一日	ナヤ	十二月二十五日	シンエンキ	六月二十三日	三月五日	ウーサ	三月二十一日	三月二十一日	クワンピ
三月二十二日	ナヤ	十二月二十六日	シンエンキ	六月二十四日	三月六日	ウーサ	三月二十二日	三月二十二日	クワンピ
三月二十三日	ナヤ	十二月二十七日	シンエンキ	六月二十五日	三月七日	ウーサ	三月二十三日	三月二十三日	クワンピ
三月二十四日	ナヤ	十二月二十八日	シンエンキ	六月二十六日	三月八日	ウーサ	三月二十四日	三月二十四日	クワンピ
三月二十五日	ナヤ	十二月二十九日	シンエンキ	六月二十七日	三月九日	ウーサ	三月二十五日	三月二十五日	クワンピ
三月二十六日	ナヤ	十二月三十日	シンエンキ	六月二十八日	三月十日	ウーサ	三月二十六日	三月二十六日	クワンピ
三月二十七日	ナヤ	十二月三十一日	シンエンキ	六月二十九日	三月十一日	ウーサ	三月二十七日	三月二十七日	クワンピ
三月二十八日	ナヤ	一千九百零一年一月一日	シンエンキ	六月三十日	三月十二日	ウーサ	三月二十八日	三月二十八日	クワンピ
三月二十九日	ナヤ	一千九百零一年一月二日	シンエンキ	七月一日	三月十三日	ウーサ	三月二十九日	三月二十九日	クワンピ
三月三十日	ナヤ	一千九百零一年一月三日	シンエンキ	七月二日	三月十四日	ウーサ	三月三十日	三月三十日	クワンピ

第三 秦 皇 島

秦皇島ハ太沽ヨリ北東約百六十哩ノ所ニ在リ北清鐵道ノ蕩河停車場ヲ距ルコト僅
カニ六哩余ニシテ從來多季開平炭礦所有船ノ屢々寄港セシ所亦々天津河口氷結ノ
時季ニ於テハ郵便物陸揚ノ要地タリ今ヤ支那政府ハ開テ外國貿易港トナシ巨万ノ
資(一千二百萬兩)ト稱スレドモ確説ニアラス)ヲ投シテ防波堤其他必要ナル築港ノ工
事ヲ行ハレソトス本港稅關長ハデットリング氏ニシテ工事ヲ擔當セルハボーゲル
氏ナリト共ニ獨逸人ナリ

秦皇島ハ一漁村ノミ故ニ外國政府ハ未ダ曾テ其開港ヲ支那ニ迫リシコトアラズ然
ルニ支那政府自ラ進ソテ之ヲ開クニ至リタルハ軍事上ノ目的ヲ以テ外國政府ノ借
入要求ヲナスモノアラコソトテ慮リタルニ出テタルナリトノ説アリ

然レモ今ノ支那政府ニシテ巨資ヲ投シテ港灣ノ修築ヲ行ハントスルハ別ニ期待ス
ル所アルニ似タリ蓋シ天津及塘沽ハ白河ノ減水ノミナラス太沽ノ淺洲ハ吃水十二
呎以上ノ漁船ノ出入ヲ容サズ又々冬季ハ氷結シテ全ク交通ヲ絶ツノ不便アリ到底
完全ナル貿易港ニアラズ故ニ秦皇島ニシテ或説ノ如ク四季吃水二十四五呎ノ船ヲ
容ル、ニ至ラハ將來北京天津ノ門戸トシテ重要ノ地トナルヤ未ダ知ルベカラズ加
フルニ山海關ヨリ牛莊ニ至ルノ間炭礦及鉄礦ニ富ムノ地多キヲ以テ其輸出口トシ
テ要港タルニ至ルベシ遼河ハ最高潮ノ時ニ於テ吃水十八呎ノ船ヲ通航セシムルヲ
得レドモ冬季ハ氷結シテ交通運輸ヲ絶ツノ不便アリ秦皇島ノ不凍港タルニ如カザ
ルナリ

秦皇島築港ノ詳細ナル設計ハ既ニ成レリト聞ク其圖面ハ秘シテ洩サズ今回ノ行其
大略ダモ知ルコト能ハザリシハ遺憾トス

第四 威海衛

威海衛ハ山東省ニ屬シ軍事上ニ於テハ北方ノ要鎮タリト雖ドモ其背後ハ山ヲ以テ圍繞セリ商業地トシテハ價值ナシ殊ニ千八百九十八年四月七日英政府ノ總理大臣代理ハルフォア氏ガ獨逸政府ニ對シ威海衛及其附近ノ借地ヨリ山東ノ内部ニ鐵道ヲ布設スルガ如キ計畫ヲナサスト誓言セルヨリ見ルモ將來商業上注目スルノ價値ナキコト明白也

現今三會社ノ上海天津航路船臨時寄港スルコトアリト雖モ其回数甚ダ少シ定期寄港スルモノハ日本郵船會社ノ香港浦鹽線二隻ノミ

第五 旅順口

旅順口ハ軍港ナルヲ以テ商業上記スベキノ要事ナシ商船ノ出入ハ東清鐵道所有船ノ起點港タルト露國船ノオアツサ及ヒ浦鹽斯德ヨリ鐵道材料及軍需品ヲ輸入スルモノ、外外國船ニテハ鐵道需用品即チ枕木石炭ヲ積來ルモノアルノミ

鐵道材料及石炭ハ多クハ東清鐵道棧橋ニ依リテ陸揚ヲ行ヒ其費用ハ船主ノ關セザル所ナリ而シテ石炭陸揚賃ハ一噸五十錢ヨリ六十錢ノ間ナリ人足不慣ノ爲メ時日ヲ費スコト多ク千五百噸ノ陸揚ニ六日ヲ要セリト云フ又タ東清鐵道所有船運送貨物ハ一個ノ揚荷賃三仙五厘ニシテ之ヲ拂フトキハ一週間以內鐵道倉庫内ニ藏スルモ倉敷料ヲ要セズト云フ

人足賃ハ二十五仙乃至三十仙ニシテ鐵道人夫ハ二十仙ナリト云フ

現今旅順口ニ在ルノ支那人ハ七八万ノ間ナルベシ外國人口ハ六百ニ上レリト云フ又タ露國軍隊ハ其詳數ヲ知ルニ難シト雖モ八千人内外ナリトノ説ヲ聞ク

第六 膠州灣

一 人口及面積

膠州ハ山東省ノ良港ニシテ獨逸國ガ依テ以テ全省ヲ制スルノ根據地タリ千八百九十七年一月始メテ之ヲ占領シ昨年九月開テ自由港トナスコトヲ公布セリ其面積約百十七平方哩ナリ目下支那人ノ居住スルモノ六万人獨逸守備兵約二千人歐米人ノ來住セルモノ三百人ヲ下ラズト云フ

二 膠州灣及青島ノ地形

膠州灣ハ山東省ノ東南部ニアル一大海灣ニシテ青島ノ岬角東北ヨリ威林岬ハ西南ヨリ突出シテ深ク海水ヲ包容シ岬端相對スル所其距離二哩ニ過キズ然レモ灣内廣濶ニシテ稍橢圓形ヲナシ直經十二哩ヨリ十五哩ニ至ル灣ノ西北ニハ數多ノ河流アリテ沙土ヲ灣内ニ流入スルヲ以テ灣ノ東南ハ海水深フシテ大船巨船ノ碇繫ヲ容スモ西北ニ至ルニ從ヒ水底淺ク遂ニハ沙船ト雖モ通航スルヲ得サルニ至ル灣ノ西岸ニ碼頭ト稱スル地アリ膠州府ハ此レヨリ西方六哩ノ地ニアリ猶此ニ一言スヘキハ目下獨逸政府ノ經營ニ係ル膠州即チ通商港トシテノ膠州ハ前記ノ膠州府及ヒ其碼頭ニアラバクシテ其對岸ノ岬角青島ノ地ヲ指セルモノニシテ只今日一般ニ知ラレタル膠州ノ名稱自ラ此地ヲモ包含スルニ至レルニアリトス(第六圖參看)

危峰亂巖突兀タル勞山ノ山勢漸ク西ニ低落シテ餘波小丘連互西南ニ走リテ岬端一ノ小半島形ヲナシ其咽喉ニ當レル所灣ノ内外ニ各小灣ヲ作ル灣内ニアルヲ太包島

ト稱シ灣外ニアルヲ青島ト云フ青島灣ハ東西ノ距離二哩ニ達セザル小灣ニシテ灣口ニ岩礁ヨリ成立セル一小島アリ青島ト云フ港名ノ起ル此ニ基ク青島ヨリ低平ナル丘陵ヲ越ユルヲ半哩ニシテ太包島ニ至ル太包島ハ亦其灣曲深カラスト雖モ前面ニ滿程島(ツイマンズ)アリ且ツ灣内ニ面セルヲ以テ頗ル船舶ノ碇繫ニ便ナリ要スルニ冬期北風ノ際ハ南岸即チ青島ニ夏時東南ノ風強キモ灣内太包島ニ投錨シテ風波ヲ避クルヲ得現時漁船ノ碇泊地ハ青島ニアリテ港頭ニ石造ノ突堤長約六十間幅四間ノモノアリテ其端更ニ長五十間幅三間ノ鉄製棧橋ヲ延長シ荷客ノ揚卸ニ便ニセリ其附近ノ水深ハ干潮六七呎滿潮十六七呎ニ達ス本港ノ東岸ハ岩礁多シト雖モ西ニ至ルニ從ヒ沙土トナリ海底ハ概シテ沙土ニシテ投錨ニ便ナリト云フ

三 氣候

氣候ハ冬期寒冽ニシテ空氣乾燥シ夏時ハ熱クシテ空氣濕潤ス通例七月ヨリ八月迄雨甚多シトス然レドモ冬期ハ北ニ陸地アルヲ以テ北風烈シカラズ氣候ノ比較的温和ナル却テ芝罘ニ優ル所アリト云フ

四 產物

山東省ハ土地磽确ニシテ農產物少ク人口却テ多キニ過クルヲ以テ勞働者トシテ各地ニ出稼スルモノ夥シ故ニ殖民ノ事業ハ到底見込ナキモ產物トテハ山藪麥稈具田及大豆ノ輸出アリ殊ニ金銀銅其他ノ礦物ハ各地コアリテ未タ曾テ開掘セラレス又石炭ノ如キハ無量ナル鑛床ヲ有シ就中「ポーシェン」「エンシン」地方ノ如キハ其炭質頗ル善良ニシテ「カヂフ」炭ニ似タリト云フ故ニ一旦鐵路ノ通スルニ至ラハ鑛業ノ有

望ナル知ルヘキナリ又從來山東省ニ輸入セル貨物ハ一面ニ芝罘ヨリ人肩驢背ヲ以テ山岳ヲ踰ヘ一面ニハ沙船ニヨリテ沿岸ヨリ一面ニハ運河ヲ利用シテ天津又ハ鎮江ヨリ運搬シ來リシカ一タヒ青島ヨリ内地ニ鐵路ノ通スルニ至ラハ山東省貨物集散ノ實權ハ此地ニ推移スベシ況ンヤ石炭ノ便勞力ノ廉ナル等ハ亦工業地トシテモ將來有望ナルニ於テチヤ他日山東沿岸ノ一大市場タルハ何人モ疑テ容レサル所ナルベシ

五 瀛船ノ寄港

現今膠洲ニ寄港スルノ瀛船ハ上海天津線ノ瀛船ニシテ獨逸人「メルチャルス」ノ取扱ニ係ルハ「ンザア瀛船會社」ノマシルテ(七六八噸)「スベルグ」(一〇三三噸)及「ンタウ」(五六八噸)ノ三隻ハ往復トモ寄港セリ此回数往復合シテ一ヶ月十二回トス此外東清鐵道所有船ニ「グトウ」(九九〇噸)及「チシカ」(一〇二八噸)ハ上海ヨリ芝罘旅順口ニ至ルノ往航ニノミ寄港シ又「招商怡和太古三會社」船ニシテ或ハ往航ニ或ハ復航ニ臨時寄港スル「少カラズ其回数ハ一定ヒズ三會社船ニシテ上海天津線ノ復航ニ於テ膠洲ニ寄港スルハ膠洲ヲ經テ本國ニ輸入スル貨物ニ對シ獎勵法ノ行ハル、カ故ニ天津輸出品ヲ膠洲ニ陸揚スルノ利益アルガ爲メナリト云フ而シテ本獨逸瀛船ノ代理店ハ「ヂーデリヒゼン」東清鐵道會社ノ代理店ハ「スミス」ニシテ其他瀛船取扱業者ニハ「カロウイツ」「アンズ」「シーダス」「ラムベツク」等アリ夫々多少ノ倉庫ト舢舨ヲ有ス然レモ舢舨ノ少キト人足ノ不慣ノ爲メ揚荷ニ時間ヲ費シ石炭ノ如キ一日平均百八十噸枕木ハ一日千四百本ニ過キスト云フ目下本港ニハ輸出物ナク只上海ヨリ

諸般ノ需要品ヲ仰クト船客ノ往來アルニ過キス我日本トノ交通ハ時々石炭又ハ枕木ヲ搭載シテ回船スルモノアルモ荷役ニ時日ヲ要スル爲メ運賃高キモ容易ニ引合ハスト云フ

六 稅 關

膠州ハ自由港ナルヲ以テ膠州輸出入品ハ無稅タリ然ルニ獨逸政府ガ支那ノ爲メ膠州境界以外ニ輸入シ又タ膠州境界以外ヨリ輸出スル貨物ニ課稅スル爲メ其港頭ニ支那稅關ヲ設置セルハ一見シテ奇異ノ感アリ其得失如何商人間ニハ之レヲ非難スルモノ多シト雖モ獨逸國ガ特ニ支那政府ト契約シテ一新例ヲ開キ其領土ノ港頭ニ支那ノ稅關ヲ建テ獨逸人ヲシテ之ヲ專管セシムルモノハ寧ロ遠大ノ利益ヲ期待セルモノ、如シ獨逸政府ノ此施設ノ膠州開拓ニ如何ナル利害ヲ有スルカハ姑ク置キ航海業者ニ取リテハ自由港タルハ其名ノミニシテ實際煩雜ノ手續ヲ要スル「其他ノ支那各港ト異ナラザルガ如シ何トナレバ膠州ノ輸出入品タルヤ否ヤハ一度ヒ稅關ノ檢査ヲ經テ始メテ定マルモノナレバ也稅關規則アリ附録トシテ記載ス

七 獨逸政府ノ膠州豫算

獨逸政府ハ一千八百九十八年ノ追加豫算ニ於テ三百八十九萬三千九百四十圓ノ支出ヲ決定セリ此金額中五十五萬四千六百四十圓ハ經常費ニシテ殘額三百三十三萬九千三百圓ハ臨時費ニ屬セリ臨時費中二百五十萬圓ハ左記ノ五項費目タリ

一 領地内ノ行政費

二 守備兵費

三領地海陸ノ測量及土地所有權ノ決定登記費
 四航路標浮標等ノ費用
 五碼頭倉庫ノ建設費
 右五項中何レノ事業ニ幾何ノ金額ヲ投スルヤハ未定ナレドモ防波堤ノ建造ノ如キ
 既ニ着手セリト云フ
 港則ハ附録ニ譯載ス

八 土地制度

獨逸國ガ支那ヨリ借受ケタル土地ノ面積百十七哩ニシテ三十五箇村ニ屬セシナリ
 獨逸政府ハ右三十五ヶ村ニ壹千五百圓ヲ拂ヒ其土地ハ獨逸政府ノ外人ニモ賣却
 スベカラズトノ約定ヲナシタリ故ニ現今民有ニ屬スル土地ハ約一万二千五十八ニ
 一クルニ過キズシテ其他ハ盡ク國有タリ國有土地ヲ個人又ハ會社ニ拂下グルトキ
 ハ競賣又ハ其他ノ方法ニ依ルニ拘ラズ凡テ賣買價ノ百分ノ六ヲ政府ニ納メ登記セ
 シムルナリ登記後二十五年ヲ經過スルトキハ更ニ評價シテ百分ノ六ノ登記稅ヲ課
 スルナリ又タ土地ヲ賣却シテ利益ヲ生ズルトキハ其利益ノ三分ノ一ハ政府ノ所得
 ニ歸スル制也若シ賣買者双方申合セテ偽價ヲ申出テ登記ヲ請求スルトキハ政府ハ
 其届出價ヲ以テ之ヲ買收スルノ權利ヲ有スルナリ

九 鐵道

獨逸ト支那トノ間ニ膠州ヨリ濟南(山東省ノ主府)沂洲ヲ經テ膠州ニ歸着スル三角形
 鐵道線布設ノ契約アリ其哩數四百三十哩也測量ハ既ニ完了セリト云フ其資本ハ清

獨兩邦人ヨリ募集シ他國人ノ投資ヲ許サザルノ約條ナリ又タ其鐵道沿線三十清里
 ノ内ニアル嶺山ハ鐵道會社ノ所有ニ歸スルノ明文モアリ而シテ本鐵道ハ英獨共同
 ノ事業タル鎮江天津鐵道(約六百哩)ト濟南府ニ於テ連絡スルノ計畫也

十 山東省ニ於ケル獨逸ノ特權

山東省ニ於ケル獨逸ノ特權中最モ重要ナルモノハ昨年三月清獨政府間ニ成立シタ
 ル約款ナリ之ニ依レバ山東省ニ於テ企ツル事業ニシテ外國ノ資本技師并ニ器械材
 料ヲ要スルトキハ先ツ獨逸ニ依頼スルコト但獨逸ハ之ヲ拒絕シタル場合ニ於テハ
 之ヲ他國ニ求ムルコトヲ得云々

十一 膠州ノ將來

膠州ノ現況ヲ見ルトキハ獨逸人ハ銳意シテ其開拓ニ從事シ其計畫亦々著々トシテ
 歩ヲ進ムルモノ、如シ此勢ヲ以テ進ムトキハ膠州ハ北方繁盛ノ要港トナリ上海天
 津線ノ瀛船ヲシテ常ニ寄港セシムルノ利益ヲ見ルニ至ルベシト信ス

十二 貨物船客運賃

貨物運賃ハ目下輸出品ナキヲ以テ定マリタル運賃率ナシ先ツ膠州上海間ニ芝罘上
 海間ノ四分三膠州天津間ハ上海天津間ノ四分ノ三ニ當ル見當ナリ上海膠州灣間ハ
 約一噸三兩ナリトス
 船客運賃ハ左ノ如シ

膠州上海間	外國人上等	支那人中等	全下等
	二五〇〇	九〇〇	七五〇

全	芝	栗	間
二五、〇〇	九、〇〇	七、五〇	〇
四〇、〇〇	一四、〇〇	一一、三〇	〇

但シ支那人船客運賃ハ時ニヨリ變更アリトス

十三 船泊ニ對スル費用 登噸數簿噸二仙五

寄港一回

積卸人足賃 一日 二十仙乃至二十五仙

水代 一噸 一弗

十四 貨物ニ對スル費用

淨船 左記ノ通り (膠州淨船會社規定ノ分)

木	麥	全	豆	豆	ハ	ヤ	ダイナ	鐵
綿 個	酒 樽	箱	擔	枚	箱	紙 卷	箱	噸
一、一五	一、一五	一、一〇	〇、〇五	〇、一五	一、一〇	〇、〇五	二、二〇	〇、〇五
竹	酒 類	全	綿 糸	全 筵 包	セメ	材	木	全
個	箱	一	個	個	ト	木	長	短
〇、三〇	〇、〇五	二、二〇	一、一五	〇、〇八	一、一五	三、〇〇	一、一〇	〇、〇五

古	蹄	鐵	染	窓	貨	人	日	廣	麥	牛	鐵	釘	全	石	染	阿	紙	屑	麥	
鐵 噸	鐵 噸	軌 條 噸	料 箱	璃 箱	幣 箱	參 箱	麥 粉 卷	麥 粉 五十 箱	乳 箱	水 箱	樽 箱	樽 箱	箱	樽 箱	油 箱	片 箱	糸 箱	田 箱	田 箱	
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	〇、〇二	〇、〇五	二、二五	一、一五	一、一〇	〇、〇五	〇、〇五	一、〇五	一、〇〇	〇、〇八	一、〇〇	二、二〇	〇、〇五	二、二〇	〇、〇五	二、二〇	二、二〇	
石炭	全	銅	馬	蠟	全	芝	下	石	馬	米	全	豚	帆	燐	石	生	粉	小	小	
ハラ	入	錢	鈴	燭	燭	筵	紙	油	油	大	小	毛	布	寸	五十 噸	糸	麵	麥	麥	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
噸	噸	袋	袋	箱	箱	卷	個	箱	頭	箱	箱	箱	俵	俵	箱	箱	箱	擔	擔	擔
一、〇〇	一、六〇	一、一〇	〇、〇五	二、二〇	〇、二五	〇、〇八	〇、〇七	〇、〇三	五、〇〇	一、一〇	〇、〇五	〇、〇九	二、二〇	一、一五	〇、〇五	一、一八	一、一五	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七

網	一擔	〇七	砂	一袋	〇五
タ	一樽	二〇			

セメント、林木、石炭ハ其數量ニヨリ別ニ契約ヲナスベシ
 鐵ハ一個二百キロ以下ノモノニ限ル其以上ノモノハ別ニ割増ヲ受クベシ
 玻璃類ハ中品破壊無關係

第七 芝罘 港

一 概況

烟臺即チ所謂芝罘ハ山東岬ノ北面「ベチリーストレット」ニ突出セル一端ニ位シ芝罘
 島ト稱スル半島西ヨリ北ニ海水ヲ包容シテ遠ク灣曲シ東面ノ海上五哩ノ地ニ崆峒
 島ノ横ルアリテ自然ノ防波ノ用ヲナシ北清唯一ノ良港タリ灣内水深五尋ヨリ七尋ニ
 及ヒ錨地ハ砂泥相混シテ頗ル錨着ニ適セリ只冬期北風ノ烈キニ耐ヘサルノ不便ア
 リト雖モ船舶停泊ノ安穩ヲ妨クルニ至ラス又港口ニ小埠頭ノ設ケアリテ能ク波浪
 ナ遮護シ荷客ノ揚卸ニ便ニセリ港頭ニ烟臺ト稱スル小丘アリ昔時倭寇ノ襲來セシ
 キ丘上烽火ヲ揚ゲテ警ヲ報セシト云フ臺猶丘上ニアリ丘上樹石參差各國ノ領事館
 此間ニ點綴シ風致頗ル佳ナリ丘麓ヨリ東南沙濱ニ沿フノ地ハ外國人ノ居留地ニシテ
 丘麓ヨリ西北ハ清國人ノ市街ナリ人口三萬二千ト稱ス此地氣候温和ニシテ山水ノ
 風致ニ富ミ且ツ天津牛莊ノ如ク結氷ノ患ナキヲ以テ四時船舶ノ寄泊地トシテ瀛船
 ノ出入絶ユルヲナク又遼東半島一帯ノ地ト相近キヲ以テ沙船ノ往來亦盛ナリトス
 只背後山岳アリテ道路險隘内地トノ交通懸絶セルハ實ニ本港ノ短處ナリトス

二 貨物聚散區域并ニ本港ノ將來

本港ハ北清唯一ノ良港タルニ拘ハラズ背面山丘起伏道途險阻内地トノ交通甚不便
 ニシテ現ニ目撃セシ所ニヨルニ豆粕ヲ内地ニ輸送スルニ小騾一頭ニ豆粕二片若ク
 ハ三片(一片六十斤)ヲ載セ運送セルヲ見ル有様ナルヲ以テ從テ供給ノ區域甚ダ狭少
 ナルヲ免レズ縱令沿岸水路ノ便ヲ以テスルモ僅カニ登州萊州青州ニ至ルニ過ギズ

青州以西ハ天津ヨリ貨物ヲ供給シ東南ハ沙船膠州灣榮城灣等ヨリ山東省ノ内部ノ地ニ百貨ヲ輸送シ本港ノ有スル貨物集散區域ハ實ニ僅少ナルノミナラズ其區域ハ土地礫确ニシテ産スル所ハ大豆、高粱、粟、麥、ノ類ノミ所謂地瘠民困到底多ク貿易ノ發達ヲ望ムベカラザルナリ然レモ現今ニ至ル迄通商貿易ノ盛ニ行ハレ年々輸出入額壹千數百萬兩ニ上レルモノハ單ニ遼東半島ニ市場ヲ有スルト四時濱船ノ寄泊地タルニアリトス本港重要ノ輸出品タル山繭及ヒ豆粕類ハ其原料ノ大半ハ遼東及錦州地方ニ仰キ輸入品タル燐寸綿糸ハ亦大部分ヲ遼東ニ輸送シ以テ貿易ノ盛況ヲ持續セヨニ過キズ然ルニ大連灣完全ナル通商港トナルニ至レハ半島一帯ノ區域ハ此地ニ奪ハレ膠州灣ヨリ内地ニ鐵道ノ通スルニ至レハ山東省ノ商品ハ悉ク膠州ニ集マリ貿易ノ實權ハ兩港ニ遷リ本港ノ前途ニ至大ノ影響ヲ及スヘキハ數ノ免レサル所ナリトス

本港輸出品ノ主ナル絹綉及ヒ麥稈具田ハ上海ニ輸送シ豆粕ハ主トシテ汕頭廣東等ニ送リテ甘蔗ノ肥料ニ供ス本港モ亦油房六十戸アリテ其製造機械ハ牛莊ニ比シ稍大ニシテ豆粕一片ノ重量ハ六十斤ナリトス又本港重要ノ輸入品タル綿糸燐寸ハ近來日本産需要多ク綿糸ハ其品質ノ佳良ナルト其右撚ナルヲ以テ頗ル内海人ノ意ニ投シ燐寸ハ其廉價ナルヲ以テ何レモ近年著シキ増進ヲナシ全ク外國品ヲ壓倒セリ今參照ノ爲メ綿糸燐寸ノ輸入額及ヒ豆粕麥稈具田絹綉ノ輸出額ヲ左ニ掲ク

日	本	品	印	度	品	英	國	品
---	---	---	---	---	---	---	---	---

年	日本	品	外	國	品
千八百九十五年	七、九七二	九〇、三二七	一、二九五		
千八百九十六年	一九、五四六	一三一、一六四	一、一七〇		
千八百九十七年	八六、二五六	五六、〇八八	一、〇五四		
千八百九十八年	一八二、三四四	四八、九八六	一、三四〇		

燐寸輸入額

年	日本	品	外	國	品
千八百九十五年	一三二、三四一	二五九、九二五			
千八百九十六年	六一四、一〇〇	一六三、一二五			
千八百九十七年	七一九、四一四	一〇六、四二〇			
千八百九十八年	一、三五五、八三八	一一〇、八九三			

豆粕、麥稈具田、絹綉輸出額

年	豆	粕	麥	稈	具	田	絹	綉
千八百九十五年	八一七、六七五	五〇、四〇六	一八、九八七					
千八百九十六年	一、三四〇、九三九	四〇、七一〇	一一、七七七					
千八百九十七年	一、二九八、三三四	四三、九七四	一六、九九一					
千八百九十八年	九七五、五二一	三七、九八六	一八、七八六					

猶此ニ附記スヘキハ日本人ノ桐材輸出ニ關スルコトニシテ山東省ハ各地ニ桐樹多

ク其質ハ日本産ニ比シテ劣リト雖モ頗ル廉價ナリシヲ以テ三四年前輸出ヲ試
ミタルモノアリテ奇利ヲ博シタルヲアリシカ忽チ同業者増加シ來リ現時ハ六軒
ノ多キニ至レリト云フ而シテ桐材ハ本港附近ノモノハ大概切リ盡シタル爲メ遠
ク内地ニ至ラサレハ之レヲ獲ルヲ困難ニシテ一方ニハ同業者競争シテ買入レノ
價格ヲ高進シ他方ニハ輸出ノ費用ヲ増加シ今ハ往時ノ如ク利益ヲ得ルヲ能ハス
ト云フ昨年輸出セル桐材ハ九千六百六十五擔ナリトス

三 瀛船ノ寄港及代理店

本港ハ北清ノ良港ニシテ出入水先ヲ要セス寄泊頗ル便利風土モ亦佳良ナルヲ以テ
北支那、朝鮮浦鹽ニ往來スル船舶ハ必ズ此地ニ寄港スルヲ以テ船舶ノ往來頗ル頻繁
ナリトス現ニ昨年中ニ於ケル入港ノ船舶ヲ牛莊天津ニ比較スレバ左ノ如シ

芝	粟	一、二六九	一、一五二、三五五
天	津	七四四	六八八、五五八
牛	莊	四八六	四一三、八八五
本港ニ定時寄港ヲナス瀛船會社并ニ代理店ヲ左ニ掲ク			
招	商	線	路
怡	和	天津線	牛莊線
太	古	全	支
			代理店
			支店
			フアーガツツン
			（滋天洋行）
			（和記洋行）

露 國 瀛 船 浦鹽線 上海旅順口線 スミス (士美洋行)

セ フ セ ン 瀛 船 天 津 線 ア ン ズ (盎斯洋行)

郵 船 香港浦鹽線 神戶天津線 神戶牛莊線 コルナベ (和記洋行)

商 船 神戶天津線 神戶牛莊線 コルナベ (和記洋行)

前記ノ内最モ勢力アルハ和記洋行ニシテ五六ヶ所ノ倉庫ヲ有シ又舢舨ヲ業トス
ル大記駁船會社ニモ勢力ヲ有シ「チャイナ」ドバンク「橫濱正金銀行等ノ代理店ヲ
兼テ信用モ亦厚シト雖モ營業ノ方法ハ自ラ粗漫ヲ免レストノ評アリ之レニ次ク
モノハ盎斯ニシテ頗ル營業ニ懇切ナリト雖モ聲望信用遠ク和記ニ及ハス滋大ハ
信用少ナク土美ハ米人ニシテ露國ノ御用商人ナリ此外高橋洋行(日本人)アリテ臨
時船ノ取扱ヲナセリト雖モ信用遠ク外人ニ及ハザルナリ

前記各線路ノ外山東省民船局ノ所屬ニテ招商局ノ取扱ニ係ル瀛船廣濟號(三百十三
噸)ハ一週一回芝罘ヲ發シ龍口虎頭崖羊角溝間ヲ航海シ開港場外沿岸ノ貨物ヲ運送
シ又太古ノ瀛船黃河號モ和記洋行ノ取扱ニテ此航路ヲ往復セシカ近來不引合トナ
レルニ付キ廢止シ現時ハ廣濟號ノミ航海セリ其外士美洋行ノ取扱ニ係ル瀛船營口
號隔日本港旅順口間ヲ往復セリ開港場外沿岸航海ニ關スル規程ハ他日ヲ參考ノ爲
メ附尾ニ附記ス

四 船客貨物及船舶ニ對スル費用

船舶ニ對スル費用

本港出入ハ頗ル簡易ニシテ左記ノ外船舶ニ對スル費用ナシ

水代 一噸 五十仙
 通船 一日 五十仙
 貨物ニ對スル費用

本港ニ出入スルモノハ雜貨多ク只時々南清へ豆粕ノ輸送ヲ見ルノ外纏リタルモノ稀ニシテ其積卸船中人足賃ハ船主之レヲ負擔シ餘ハ荷主ノ支辨ニ屬ス積荷ヲナスニハ荷主其船主ニテ本船側ニ回漕シ揚荷ヲナスニハ船主船主積取リテ陸揚シ其費用ヲ荷主ヨリ徴收ス
 本港人足賃ハ貨物ニヨリテ定マリタル率ナシ大約一人一日三十仙ニシテ貨物一噸若クハ一個ニ對スル費用ハ時々異同アリトス然レモ其大略ハ左ノ如シ
 石炭 二十仙
 雜貨 一噸 八仙五
 太古瀛船ニハ石炭ノ積込賃百噸六兩ノ割合ニテ特約ヲナシ居レリ
 又參照ノ爲メ大記駁船公司ノ船賃ヲ左ニ掲ク但シ船賃ハ陸揚費ヲ含有スルモノナリ

土	水	砂	全	綿
紙	砂	糖	糸	糸
一箱	一箱	一箱	一箱	一箱
三〇	三〇	三〇	五〇	一〇〇
屑	竹	筴	米	氷
糸	卷	個	袋	箱
一箱	一箱	一箱	一箱	一箱
一〇〇	三〇	六〇	四〇	一二

芥	染	玻	海	海	鉛	錫	銅	石	セ	鋼	鈕	針	塗	釘	鐵	古	小	大
子	料	璃	草	草	線	油	油	樽	鐵	鐵	鐵	鐵	油	蹄	鐵	鐵	紙	紙
一箱	一箱	一箱	一俵	一俵	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱
三〇	三〇	三〇	五〇	六〇	三〇	三〇	二五	三〇	一〇〇	三〇	五〇	五〇	五〇	一〇	三〇	二五	五	一二
海	清	廣	燐	全	全	石	漆	砒	衣	全	酒	綿	鴉	藥	生	煙	山	純
參	國	東	寸	嶮	外	炭	器	霜	類				片	種	姜	草	繭	
一箱	一箱	一箱	一箱	一噸	一噸	一噸	一箱	一箱	一箱	一箱	一樽	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱	一箱
五〇	五〇	三〇	五〇	五〇	四〇	二五〇	五〇	三〇	三〇	三〇	一〇〇	五〇	五〇	五〇	四〇	五〇	五〇	一〇〇

傘	紙	一箱	三〇	寶	貨	千兩ヨリ	五〇〇
細	竹	一箱	六	荒	荷	一	三〇
麥	稗	一箱	五〇	貝	殼	一	二〇
豆	粕	一	冬期 八六	雜	貨	一	大 一〇〇 小 五〇
豆	油	一籠	五〇	牛	一	一	二弗
切	芋	一箱	二〇	樹	脂	一箱	三〇

五 貨客運賃

各港間貨物運賃ハ三會社協定率ヲ標準トシ時ニヨリ多少ノ加減ヲナセリ
貨物運賃表

杏	仁	擔	芝罘天津間	芝罘牛莊間	芝罘膠州間	芝罘上海間
明	參	擔	一〇	一〇	一〇	一〇
海	參	擔	二〇	一五	一〇	一〇
棺	死休入	個	二〇〇〇	一五〇〇	一四〇〇	二〇〇〇
紙	上等	擔	四〇	二五	一五	二〇
全	下等	擔	二五	二五	一〇	一五
繭	細	擔	二〇〇	二〇〇	七〇	一〇〇
黑	絹	擔	一	一	一	一

棗	魚	擔	一	一	一	一〇
乾	魚	擔	三〇	一	一	三〇
屑	糸	擔	一	一	一	三〇
砂	糖	擔	一	一	一	二〇
煙	草	擔	五〇	三〇	二一	三〇
粉	絲	擔	一	一	一	三〇
胡	桃	擔	一	一	一	三〇
羊	毛	擔	一	一	一	三〇
菓	物	擔	三〇	二一	二一	三〇
麥	稗	擔	一	一	一	九〇
寶	貨	千兩	四〇〇	二五〇	二八〇	四〇〇

本港貨物積卸ハ雜貨類ナルルハ荷役迅速ナレモ石炭ノ如キハ一日二百噸ニ過キス
ト云フ
又左ニ芝罘龍口虎頭崖羊角溝間運賃ヲ掲ク

米	麥	豆	芝罘龍口間	芝罘虎頭崖間	芝罘羊角溝間
一擔	一擔	一擔	〇七	一五	一五
綿	糸	一	三〇	四五	五〇
鐵	一	一	〇七	一〇	一五

		船客運賃		
料	一擔	外國人上等	清國人中等	清國人下等
桐油	一擔	一、一〇	二、〇〇	二、二五
棉花	一擔	二、二五	三、〇〇	四、〇〇
夏布	一擔	三、〇〇	四、〇〇	五、〇〇
信石	一擔	一、〇〇	二、〇〇	三、〇〇
金銀	千兩	一、〇〇	一、五〇	二、〇〇
洋布	一匹	二、〇〇	三、〇〇	五、〇〇
新鐵	一擔	一、〇〇	一、五〇	二、〇〇
赤白及氷砂糖	一擔	〇、七〇	一、〇〇	一、五〇
燐寸	一担	三、〇〇	四、五〇	五、五〇
海菜	一擔	〇、七〇	一、〇〇	一、五〇
石油	一箱	〇、七〇	一、〇〇	一、五〇
顏料	一擔	二、〇〇	三、〇〇	四、〇〇

芝罘威海衛間	四、〇〇	一、〇〇
芝罘威順口間	五、〇〇	一、〇〇

山東省ハ由來土地礫礪ニシテ農産物乏シク人口却テ饒多ニ過タルヲ以テ労働者トシテ各地ニ渡航スルモノ夥シク毎年解氷ニ及ヒ本港ヨリ浦鹽牛莊天津等ニ分散シ結氷ノ期ニ及ヒテ掃來ス皆往復瀛船ノ便ニヨルヲ以テ運賃ハ低廉ナルモ瀛船ノ收益少ナカラスト昨年本港ヨリ各地ニ往復セル清國人ノ員數左ノ如シ

上	乘	下
海	船	船
天津	人	人
牛莊	員	員
上	一、五八〇	一、五八四
天津	七、六二四	一〇、五八八
牛莊	二二、〇一六	一九、〇三七
旅順口	一、三七四	三、五八七
仁川	一、二〇五	二、六三九
浦鹽	一三、四二三	一一、〇三四
龍口、虎頭崖、羊角溝等	一、四六一	二、一八七
其他各港	二、七九	六、〇三

第八 牛莊

一 營口ノ概況

開港地トシテ牛莊即チ營口ハ遼河ノ流ヲ溯ルテ十四海里河ノ左岸ニ横レル狹長ナル一市街ニシテ中央ニ關帝廟アリテ其上流ハ東營子ト稱シ外國人ノ居留地ニシテ其下流ハ西營子ト稱シ清國人ノ家屋連櫓櫓比シテ東營子ニ連續シ人口約八万ト號ス河ノ對岸ハ只荒涼タル平原ニシテ高粱ヲ産スルノミ一ノ人家ヲ見ス遼河ノ河幅ノ約五丁ニシテ水流急劇増水ノ時ハ一時間五六湮ノ速力アルニ至ル地勢頗ル低濕ナルヲ以テ潮水ノ溯回モ亦劇シク爲メニ兩岸ノ砂土ヲ崩壞シ護岸甚々困難ナリ水底ハ市街上流牛家屯迄ハ今猶深クシテ大船巨舶ノ碇繫ニ便ナレモ河底ハ漸次沙石ノ爲メ埋モルノ患アリ故ニ往時貿易ノ市場ハ上流白華浦ニアリシモ田庄臺興降臺ト漸次下流ニ轉シ遂ニ現時ノ營口ニ遷ルニ至レリト云フ河口ヲ去ルコト約十湮ニシテ岡洲アリ干潮六七呎滿潮十七呎ヲ通常トシ時トシテ十八呎ヲ超ユルコトアリ吃水深キ船舶ハ河水ニ入ルヲ得ス毎年十一月二十三、四日頃ヨリ結氷シ三月二十日頃解氷ス此地産物ハ大豆及豆粕ヲ主トシ就中大豆ハ皆遼河ノ便ニヨリ遠ク奉天鐵嶺等ヨリ百石乃至五十石積ノ蓬船ニヨリ流下スルモノニシテ其輸出額ハ實ニ四千万擔ノ多キニ及ヒ蓬船ノ多キハ一万ニ達スルコトアリト云フ

河岸ハ水流急ナルヲ以テ棧橋ヲ設ルヲ困難ニテ且ツ時々修築ニ少ナカラサル費用ヲ要ス目下棧橋ヲ有スルモノハ遠來、太古等ニシテ是等ハ亦完全ナル者ニアラス普通船舶ハ中流ニアリテ荷役ヲナセリ又本港ハ倉庫ノ設備不完全ニシテ招商局怡和

等僅カニナル倉庫ヲ有セルニ過キス其他油房即チ豆油製造所ヲ有スルモノハ單ニ甌壁ヲ以テ圍繞セル貯藏所ヲ有セリ

營口ヨリ上流約三湮左岸ヲ牛家屯ト云フ露滿鐵道ノ停車場ノアル所ニシテ未ダ工事ハ全ク落成セスト雖モ棧橋起重器ノ設備アリテ此邊ノ河岸ハ河水屈曲セルヲ以テ水勢潮流急劇ニシテ水底壟塞セラレ近岸水甚深ク大船モ直チニ河邊ニ横付トナスコトヲ得故ニ枕木又ハ石炭等ヲ陸揚スルニハ大概ポンツーンヲ設ケ陸上ヨリ本船ニ板ヲ架シ「ウヰンチ」ヲ使用シテ陸揚ヲナセリ然レモ前記ノ如ク水勢急ナルヲ以テ河岸崩壞シ鐵道會社ニアリテモ護岸ニ困難セリト云フ

西營子ノ對岸沮洳ノ地ハ北清鐵道ノ終點地ニシテ目下既ニ開通シ居レル中後所ヨリ錦州ヲ經テ此地ニ通スルモノニシテ河岸ニ棧橋起重機及ヒ倉庫ノ設備アリ日本專管居留地ハ其東邊ヲ指定シ己ニ協定ヲ經タリト云フ其區域ハ停車場ヨリ東河岸ニ沿フテ八千呎長サ三千呎ヨリ二千五百呎ニ及ヒ其東邊ハ英國政府ノ要求ニ係ル居留地區域ナリ(第七圖參看)

二 貨物集散ノ區域

本港ヨリ輸出スル物産ハ豆、豆粕、及ヒ豆油ヲ最トシ豆ハ其種類甚多ク黃豆、青豆、黑豆、小豆、綠豆、蠶豆等アリテ其產地ハ遼河ノ流域滿洲ノ平原ニアリ奉天、遼陽、田庄臺、鐵嶺、通江子、開原、新民屯等ハ其主ナルモノニシテ就中通江子ハ東西遼河ノ會合點ニシテ舟楫ノ利此邊ヨリ通スルヲ以テ其以北ノ産ハ悉ク此地ニ集リ無慮百万石ニ上ルト云フ是等ノ豆貨ヲ積載スル蓬船ハ大小二種アリ即チ

槽 船 (大) 百石乃至八十石 水夫五人
 (小) 七十石乃至六十石 全 四人
 牛 船 (大) 五十石 全 四人
 (小) 四十石 全 三人

ニシテ流下スルキハ水力ニヨリ上航スルニハ巧ニ布帆ヲ使用シ上下往來スルモノ
 一万四五千隻ニ及フト云フ是等ノ蓬船ハ春期解氷ノ期ニ及ヒ豆貨ヲ此地ニ輸送シ
 來リ是レヨリ清國沿岸各港及ヒ日本ニ輸出ス豆油及豆粕ハ概テ田庄臺及本港ニア
 リテ製出スルモノニシテ豆油ハ主トシテ食料品トシテ長江一帶ノ地ニ供給シ豆粕
 ハ肥料トシテ日本及南清、汕頭、廣東、地ニ輸出セリ其他十方兩以上ノ輸物産ハ人參
 生絲藥草等ナリトス本港ニ輸入スル商品ハ石油、燐寸、綿糸、綿布、其他諸雜貨類ヲ主ト
 シ多ク濠船ノ便ニヨリテ清國沿岸及ヒ日本ヨリ輸入シ流下セル蓬船ノ便ニヨリテ
 之レヲ上流ニ回漕シ冬期結氷ノ間ハ海上トノ交通ハ一時杜塞スト雖モ左記ノ車馬
 ノ便ニヨリ

- 大車 約五十擔積 騾馬六七頭
- 中車 約三十三擔積 全 四五頭
- 小車 約十六擔積 牛一頭若クハ騾馬二三頭

遠ク内地ニ貨物ヲ運搬シ陸路ノ交通ハ却テ此期間ニ於テ最モ繁劇ヲ極ムト云フ是
 等ノ商品ハ水陸ノ便ニヨリ遼陽、奉天、開原、鉄嶺、吉林、地方及ヒ黑龍江地方ニ分配セラ
 ル、モノニシテ就中奉天府ハ滿洲唯一ノ都會ニシテ人口二十五万ヲ有シ巨商豪賈

覽テ列シテ雜處シ各種ノ商業機關具備シ滿洲一帶ニ供給スル百貨ハ一旦此地ヲ經
 テ供給セラル、ヲ以テ商業頗ル盛大ナリト云フ總シテ滿洲地方ハ廣漠タル原野相
 連ナリ農産地トシテ無限ノ富源ヲ有スルガ故ニ山東直隸ヨリ移住開拓スルモノ夥
 シク人口漸次繁殖シ滿州土人ノ衰退ニ反シ却テ南方ノ開墾者頻リニ貨殖ノ道ヲ講
 シ開拓ヲ勉ムルヲ以テ雜貨ノ賣行等モ年々著シキ増進ヲナシ、アリ殊ニ近來日
 本ノ雜系雜貨類頗ル好評ヲ博シ輸入大ニ増加セリ又本港ニ出入セル船舶モ年々日
 本船數ノ増加シ大豆、豆粕ノ輸出額モ年々増進ノ趨勢ヲ呈セリ
 左ニ千八百九十六年以降輸出大豆、豆粕、及ヒ輸出入總額并ニ入港船隻ノ數ヲ列擧ス

大豆及豆粕輸出額

年	日本輸出額		清國各港輸出額		輸出總額	
	豆	粕	豆	粕	豆	粕
千八百九十六年	八七一,九六〇	一,四八四,二四七	二,九六三,九〇〇	一,二三九,七七三	三,八八五,八六〇	二,七三四,〇三〇
千八百九十七年	一,六六〇,二五〇	一,六五六,五二三	二,二〇三,六一一	一,六〇〇,三三七	三,八七二,八四二	三,三〇六,八五二
千八百九十八年	一,八三〇,五三五	一,七三七,三二〇	二,三九〇,四三三	一,九六六,六二一	四,三三〇,九六〇	三,六九五,八三一
千八百九十九年	五五三,九四四	八九九,三〇九	六五〇,二〇〇	八〇五,三〇七	一,一〇三,一四四	一,七〇〇,六二六

輸出入總額

年	外國品輸入	輸出	總計
千八百九十六年	八,二二九,九三三	一一,三九〇,九二四	一九,四〇三,八五六

入港船隻并噸數

年	日本 船		外國 船		總計	
	隻	噸數	隻	噸數	隻	噸數
千八百九十七年		八、九五、九三九		一三、八二、三五九		二二、八〇、二八八
千八百九十八年		一〇、五七、四七一		一七、四三、六〇〇		二八、〇〇、一〇七一
千八百九十六年	七	二六、六四〇	三六	二五、三三四	四三	三三、三三四
千八百九十七年	五	四三、九七七	三三	三二、九三四	四四	三五、九一一
千八百九十八年	一三	一〇〇、九六六	三四	三〇三、〇一五	四六	四〇三、九八一
千八百九十九年	七		一三		二〇	

三 牛莊ノ將來

牛莊港ハ我國トノ貿易上ニ於テハ清國各港中最モ深キ關係ヲ有スルナリ昨年牛莊ノ外國貿易總額二千八百六万三千一百四十一兩ニシテ其中七百二十二万七千二百十二兩ハ我國ニ對スル輸出額タリ則チ全貿易ノ四割強ハ我國トノ輸出入ニ屬スルナリ故ニ本港ノ將來ハ我貿易業者ハ勿論航業者ノ注目ヲ要スル所ナリ

北清鐵道ノ新民廳ニ達スルノ線營口ニ連絡スルトキハ本港ノ滿州各地ニ對スル貿易額ノ大ニ増進スヘキヤ論スルマテモナシ營口枝線ノ天津北京ニ連絡スルトキハ天津輸入ノ一部ハ本港ニ吸收シ又タ沿線ノ產物モ不長港ナル塘沽天津ニ出ヅルヨリモ比較的長港タル本港ニ出ヅルヲ便トスルニ至ルベシ之ニ加フルニ露滿鐵道ノ

枝線ハ西比利亞蒙古ノ平原ヲ横ハリ滿州ノ盛都名邑ヲ經テ本港ノ上流五哩ノ所ニ水陸連絡ノ設備ヲナセルアリ而シテ兩三年ヲ出デスシテ北清鐵道ノ全線ハ竣成スヘク露滿鐵道モ亦鉄嶺以南ハ明年中ニ運輸ノ便ヲ開クニ至ルベシ一千清里ノ間舟楫ノ便ヲ有スル遼河ト右ニ鐵道ノ便以テ交通運輸ヲ資ク本港ノ將來ハ甚々有望ナリト謂フベシ我社ノ代理店タル「パンヂチル」商會ノ如キモ明年ハ碼頭倉庫ヲ建設スト云ヘリ其豫定棧橋料倉庫料等ハ左ノ如シ

棧橋料 七十五兩

人足賃一日 三十仙

瀛船倉庫間運送人足賃一個ニ付 壹仙五厘

倉庫料一週間内一個ニ付 一仙

露滿鐵道ノ終點タル大連灣ニシテ世界商業ニ開放セラレ其設備完成シ又タ露國ニシテ大連灣ノ繁盛ヲ催ガサガ爲メ大連灣運賃率ヲ特ニ低減スルマデニ至ラザルモ少クモ公平ノ定率ヲ定メ右大鐵道ヲ世界ノ自他商業ニ供スルトキハ牛莊ハ之ガ影響ヲ受クルコト大ナルベシ然レドモ是レ蓋シ牛莊貿易進步ノ程度ニ影響スルマデニシテ其退歩スルガ如キナカルベキハ衆人ノ信ズル所ナリ

牛莊ニ於テ定メントスル我日本居留地ハ鐵道終點ノ停車場ニ接セリ今ヤ低濕ノ草野ナレドモ鐵道開通ノ時ニ至ラハ漸次昌盛ノ區タルニ至ルベシト信ズ(別圖參看)

四 本港貨物積卸ノ習慣

本港ヨリ輸出スル豆貨ハ解水後遠シ鐵嶺通江子等ヨリ彼ノ牛莊槽船ニヨリテ流下シ先ツ市街ノ對岸ニ碇船シ問屋即チ經紀ノ手ヲ經テ賣買ヲナス賣約調ヘハ市街ノ

方面ニ至リ陸揚シ或ハ經紀ノ浮船ニ或ハ直チニ瀛船ニ積替スルモノトス又豆油豆
粕ハ上流ヨリスルモノハ大豆ト同シク蓬船ニヨリ本港ヨリ製出スルモノハ經紀ノ
浮船ニヨリ本船ニ積込ムモノトス

浮船

大 二百石積 水夫八九人
小 百五十石積 全 五六人

豆油ノ製造ハ通例大豆八斗一升ヲ壓搾シテ豆油約二十斤ト豆粕五片ヲ得其一片ハ
平均海關斤四十八斤(船積四十六斤ト計算ス)ナリトス而シテ豆油ハ柳條ノ類ニシテ
製シタル籠ニ盛り多クハ沙船ノ便ニヨリ輸出シ又瀛船便ニ據ルモノハ運賃高價ナ
ルヲ以テ大概大豆積ノ借船(チャタートスチーマー)ニ積込ムヲ常トス而シテ豆油ノ
主ナル需用地ハ長江一帶ノ地ニシテ豆粕ハ其儘瀛船便ニヨリ南清及ヒ日本ニ輸出
シテ肥料ニ供ス

輸入雜貨ハ本船着スルヤ通例荷主ヨリ夫々浮船ヲ差遣シテ船側ニ受取リ税關ノ手
數ヲナシ自家ニ引取ルヲ習慣トス斯ク荷揚ハ荷主ノ勝手タルヲ以テ

第一 揚荷遅延ヲ生スルヲ

第二 荷物ヲ轉回スル爲メ損傷ヲ生スルヲ

ノ弊害アリテ前記ノ習慣ハ甚不便ナリトス故ニ定期船トシテ荷役ノ急ク場合ニハ
船主ニ於テ浮船ヲ供ヘ一時ニ之レヲ轉載シ置クノ設備ヲナサザレバ到底出帆ノ期
ヲ守ルヲ困難ナリトス郵船會社ノ定期船ハ夫々浮船ニ積替ヲナセリ

五 各港間荷客運賃

本港ヨリ各港ニ至ル運賃ハ三會社ニ協定ノ率ニ依レリ但シ清國人船客ノ運賃ハ時
々變動セリ

本港大豆豆粕ノ積込ハ迅速ナレモ石炭枕木等ハ比較上頗ル時間ヲ費セリ即チ石炭
ハ一日二百噸乃至二百五十噸枕木約四千本ナリト云フ

六 船舶貨物ニ對スル費用

船舶

船舶水先料	一	呎	三	兩
醫師手數料	一	回	四	目無料
棧橋料	一	回	十	弗
水代	一	噸	七十五	弗

貨物

積卸人足賃	一	人一日	三十	仙
本船ヨリ蔵入迄	一	個	一	仙五
蔵敷一週間	一	個	一	仙

浮船

綿糸及雜貨	一	個	十三	仙
紙、海草、荒物	一	個	七	仙
銅鉄類	一	個	六	仙

豆及豆粕積込人足賃
 豆 一石 四百五十文 (即チ七十二文)
 豆粕 一枚 四十五文 (即チ七文二)
 石炭 一噸 二十七八仙
 枕木 一本 三仙

本港ハ上海天津ノ如ク前記ノ費目ニ一定ノ率ナク全ク人足賃ノ高低及ヒ荷役ノ摸樣ニヨルモノニシテ前記ハ其大略ヲ計算シタルモノニシテ時ニヨリ異同アルモノトス

七 本港最初最終出入船隻并ニ月日

年	入		出	
	月日	船名	月日	船名
千八百九十六年	三月廿八日	イクサ	十一月二十四日	ペービ
千八百九十七年	三月十九日	チヨソ	十一月廿六日	千代田丸
千八百九十八年	四月一日	チリ	十一月廿五日	シソガ
千八百九十九年	三月十七日	カルガ		

第九 北清鐵道及露清鐵道

近來清國ニ於ケル鐵道布設ノ計畫頗ル多シト雖モ其起工シテ着々工事ヲ進行セルハ北清鐵道蘆漢鐵道及ヒ露滿鐵道ナリトス今支那ニ於ケル凡テノ鐵道計畫ヲ舉クニハ左ノ如シ

既設鐵道	支那	三一七哩
建設中	全	一五八哩
全	蘆漢鐵道	七〇〇哩
全	白耳義	一、四〇〇哩
全	露	二、五七五哩
測量済又ハ測量中	支那	九七哩
全	獨	四三〇哩
全	英	七三〇哩
全	英米合同	七〇〇哩
全	露清	一三〇哩
全	佛	四二〇哩
小計		二、五〇七哩
未測量ノ分	英獨合同	六〇〇哩
全	英	四七〇哩
小計		一、〇七〇哩

北清鐵道

本鐵道ハ北京城外馬家舖ニ起リ天津塘沽山海關錦州ヲ經テ廣寧ニ至リ廣寧ノ南東十里ノ所ニ分岐點ヲ設ケ分岐點ヨリ枝線ハ營口ニ出テ(五十五哩)本線ハ新民廳ニ至リ他日奉天府ニ於テ露清鐵道ニ接續スヘク北方ニテハ豐臺(北京ヨリ七八哩)ニ於テ蘆漢鐵道ニ連絡スルノ計畫ナリ線路ノ延長本枝線ヲ合シテ五百五十八哩ニシテ目下運轉ヲ開始セルハ北京中後所間約三百哩也

本鐵道ノ延長ハ全ク英國ノ援助ニ依レルナリ英人ハ錦州附近(ナンピアン)ト稱スル地ニ於テ鑛山開掘權ヲ有スルノミナラズ最初露國ハ露滿鐵道ヲ奉天府ヨリ旅順口大連灣ニ直行セシメ牛莊ヲ除キ以テ滿洲蒙古ノ商業ヲ大連灣ニ集中スルノ計畫ヲ取レリ是レ北清貿易上英國ニ加フルノ大打撃ニシテ牛莊ノ如キ之ガ爲メニ現今ノ貿易額ノ七割ヲ失フノ豫定ナリシナリ此時ヨリシテ英清露ノ間ニ瀕々タル交渉ヲ累テタル上英國ハ對清貿易策トシテ北清鐵道延長ノ資本ヲ貸付スルコト、ナリ香港上海銀行ハ五分半ノ利息ヲ以テ二百万磅ヲ北清鐵道ニ貸付シ英人ヲ以テ鐵道ノ監督ヲ行ハシムルコトヲ約シタルナリ蓋シ英國ハ本鐵道ニ依リテ滿州貿易ヲ牛莊ニ吸收セントスルナリ本鐵道延長資本貸付ノ約成ルノ前後ニ於テ英露間ニ協定シタル事項ニシテ最モ注目スベキハ左ノ二項也

- 一 滿州ハ露國ノ勢力範圍ナルガ故ニ資本貸付ノ抵當トシテ鐵道ヲ書入レシムルコトヲ許サズ單ニ其收入ヲ抵當トスル事
- 一 英露與ニ其勢力ノ下ニアル鐵道運賃率及取扱方ニ於テ公平ヲ保チ決シテ自

他ノ區別ヲ立テザルコト

北清鐵道沿道ノ要地ハ北京、天津、塘沽、山海關、秦皇島、廣寧、營口、新民廳、等ナリ○新民廳ハ穀物貿易ノ中心市場ニシテ滿州屈指ノ商業地ナリ○營口ハ本鐵道枝線ノ終點ニシテ其停車場ハ牛莊港ノ對岸ナリ既ニ遼河ニ沿フテ停車場ヲ設ケ棧橋ノ架設モ略ホ成レリ他日鐵道ノ運轉ヲ開始スルトキハ數年來既ニ著シキ進歩ヲナセル牛莊ノ輸出入ニ非常ノ速度ヲ加フルハ衆人ノ期待スル所ナリ○廣寧附近ハ鐵鑛及ヒ炭坑ニ富ミ外人ノ殊ニ屬目セル所ナリ○秦皇島ハ清國政府ガ新ニ開キタル外國貿易港ニシテ北方ノ不凍港ナリ今ヤ多額ノ費用ヲ投シテ港灣ヲ改良スルノ計畫アリ本線蕩河停車場ヲ距ル僅カニ數哩ニシテ既ニ枝線布設ノ計畫アリ○山海關ノ近傍ニハ炭坑アリ唐山地方毎日平均ノ出炭高ハ二千噸昨年中ノ產出額ハ六十五萬噸ニシテ之ニ使用セル工夫ハ四千八ヨリ五千八ノ間ナリト稱ス「シヤフト」數三個一號ハ一千三百呎二號ハ六百呎三號ハ三百呎ノ深ナリト云フ開平炭ト稱スルモノ是也運炭ハ本鐵道收入ノ重要部分ヲナセルナリ○北京ノ本鐵道ニ對スルノ關係ノ大ナルハ言ハズシテ明カナリ○天津ハ現時清國第二位ノ貿易港ニシテ本鐵道ニ重要ノ關係ヲ有スルコト亦タ言ハズシテ可ナリ本鐵道ハ此地ニ於テハ棧橋用水岸長サ六百呎其地坪二十二萬三千二百二十坪(百八十一エーカー)ヲ有セリ○塘沽ハ兩三年前白河減水ノ爲メ天津行ノ漁船碇繫地トナリ多キトキハ四十隻以上ノ漁船輻湊スルコトアリ白河ノ現狀ニシテ改良セラレサル間ハ北清貿易ノ最要地ナリ本鐵道ハ此地ニ於テ棧橋用水岸長サ三千三百呎別ニ材木揚棧橋用

ノ水岸長サ七百二十呎地坪合シテ百〇一万八千三百六十八坪(八百三十五エー
 クル)ヲ所有セリ塘沽ノ地所ニ限アリ充分ノ計畫ヲ行フ能ハザルヲ以テ次ノ停車
 場新河ニ於テモ瀛船棧橋用水岸二千七百五十呎地坪六千二百二十坪(五十一エー
 クル)ヲ有セリ蓋シ塘沽ニ於テハ十隻ノ瀛船新河ニ於テハ七八隻同時ニ棧橋ニ依リテ
 荷役ヲナスコトヲ得ベシ其規模亦大ナリト言フベシ
 北清鐵道ノ收支勘定昨年十一月鐵道技師ギンチル氏ノ報告ニ依レバ大略左ノ如
 シ

收入二、〇〇〇、〇〇〇兩 英貨ニ換算シテ 二六六、六六六磅
 支出一、二〇〇、〇〇〇兩 全 一六〇、〇〇〇磅
 差引利益八〇〇、〇〇〇兩 全 一〇六、六六六磅

前記利益ハ借入資本二百万磅ニ對シ年五朱三分ノ一ニ當レリ既設線ノ設備完成
 セザルノミナラズ山海關ヨリ殆ソド一百哩ノ間ハ交通運輸寥寞ノ地タリ利益ノ
 多ク擧ラザルハ當然ナレモ本線ニシテ新民廳ニ達シ其技線ニシテ營口ニ出ヅル
 ニ至レバ其收入ハ顯著ノ増進ヲナスベシト云フ
 本鐵道北京天津間八十三哩四分ノ三、豐臺連絡線トモハ複線ニシテ八十五磅ノ鉄
 軌ヲ用キ天津塘沽間二十七哩ハ單線ニシテ其鉄軌ハ七十磅ナリ塘沽山海關間百
 四十六哩四分ノ三モ單線ニシテ鉄軌ハ六十磅ナリ軌道ノ幅ハ普通ノ廣軌即チ獨
 米ノ「スタンダード」ニシテ四呎八吋二分ノ一也
 鐵道布設ノ工費一哩幾何ニ當ルヤ帳簿ノ組織支那流ナルヲ以テ細密ニ計算スル

ニ由ナシト雖モ當局技師キングー氏ノチャイルスベレスホルド卿ニ示シタルモ
 ノニ依レバ北京ヨリ中後所ニ至ル三百哩ノ間鐵道ニ属スル資本ハ一千六百万兩
 ナ要シタリトアリ此金額中唐山豐臺山海關ノ工場ニ六十万兩ヲ費シタリト云ヘ
 バ建設工費ノ概略推算スルコトヲ得ベシ
 機關車ハ毎日平均三十六臺ヲ使用セリ盡ク米國製ナリ貨車ハ二十噸積最モ多ク
 其他ハ十五噸及十噸積ナリ
 鐵道運賃ハ大略左ノ如シ天津塘沽間ハ水運ニ對抗スル爲メ特ニ其率ヲ低減セル
 ナ見ル

天津塘沽間	天津山海關間	天津北京間	天津塘沽間		天津山海關間		天津北京間	
			運數	運賃	運數	運賃	運數	運賃
一等貨物	七	七	八	二、八二五	八	二、九三九	八	二、七五〇
二等貨物	五	四	四	二、〇四〇	四	二、三九〇	四	二、一五〇
三等貨物	四	三	三	一、五八一	三	一、八七三	三	一、七五〇
四等貨物	三	二	二	一、二四八	二	一、四七六	二	一、三五〇

前記各等貨物ノ種目ハ左ノ如シ
 一等貨物 綿花、毛皮、熟皮、洋線、煤油、靴、鞋、帽、桌椅、木器、木炭、等
 二等貨物 洋布、綿衣、生皮、羊毛、顏料、磁器、麻繩、藥材、煙草、粉條、菜蔬、肉類、雜貨、

三等貨物 米、麥、豆、芝麻、白麵、瓦、缸器、銅鎖、鉛、錫
四等貨物 條石、石子、磚瓦、石灰、砂土、

露清鐵道 (又々露滿鐵道ト稱ス)

「ストレンテンズク」浦蘆斯德線ハ清國ノ地ヲ通過スルコト一千哩ナレド本線ハ清國ノ野ヲ通過スルノ長サ四百哩ニシテステレンテスク浦蘆線ノ支線ナリ而シテ其終點ハ大連灣ナリ今ヤ鉄嶺ヨリ奉天府ヲ經テ旅順口大連灣ニ至ルノ間ノ工事ハ非常ノ速度ヲ以テ進行シ明年中ニハ鉄嶺大連灣間二百五六十哩ノ工事ハ竣成スベシト云フ別ニ枝線アリ大石橋ヨリ分レテ牛莊ノ上流五哩ニ位置セル牛家屯ニ達セリ其距離十八哩ニシテ既ニ鉄軌ノ布設ヲ了レリ牛家屯ノ停車場ハ遼河ニ沿フテ六十万坪三千畝ノ敷地ヲ有セリ沿岸水深クシテ牛莊ニ入ルノ漁船ハ盡ク同所ニ廻航シ得ルナリ本停車場ニハ客車製造場アリ器械工場アリ從來露滿鐵道ノ材料等ハ大連灣旅順口及ヒ牛家屯ノ三所ヨリ陸揚セリト雖トモ現今ニテハ牛家屯最モ便利ノ地位ヲ占メ隨テ其輸送高最モ多シト云フ

九月十九日牛家屯ノ工場ヲ觀ル偶々橫濱富久商會ノ漁船千代田丸停車場境内ノ河岸ニ接シ小舟ヲ横へ踏板ヲ陸ニ架シ枕木ヲ陸揚セリ一日ノ揚高二千本ニ過ギズ「ペスト」病ノ爲メ人足不足ノ爲ナリト云へリ平常ナレバ毎日六千本ヲ卸スコトヲ得ベシ本船滿載シテ二万四千本ヲ積ミ來リ四日間ニ陸揚ヲ了へタルコトアリト他日ノ參考ノ爲メ附記ス

滿州ノ面積ハ三十六万二千三百十方英里ニシテ殆ソド大英國ニ三倍セリ耕作ノ地

ハ總面積約二十四分ノ一ニシテ則チ一萬六千平方英里人口ハ二千萬ヨリ二千五百万ノ間ナルヘシト云フ而シテ交通運輸頗ル不便ニシテ遼河及松花江ニ依リテ沿岸地方ノ運輸ヲ助クルアルノミ千八百九十七年「コルチルアラオン」氏ノ報告ニ依レバ鉄嶺ヨリ牛莊マテ小舟(多クハ六噸乃至七噸積)ニテ一擔運賃四匁其距離百四十哩ナレバ一噸一哩ノ運賃ハ我六錢ニ當レリ陸送便ニ依ルトキハクワソチエンツヨリ鉄嶺百六十二哩ノ間二噸積ノ馬車賃冬ハ三十圓夏ハ百圓トナルコトアリ最低賃ニ依ルモ一哩一噸十錢ニ當ルナリ更ニ鉄嶺ヨリ牛莊ニ送ルトキハ「クワソチエンツ」牛莊間ノ運賃ハ一噸一哩七錢トナルベシト云フ今若シ鐵道ニ依リテ輸送センカ一哩一噸僅カニ二錢ヲ以テ足ルベシ露滿鐵道ノ滿州商業ニ著シキ影響ヲ與フルヤ此點ノミヲ以テ考フルモ推測スルニ餘アルヘシ

露滿鐵道ノ終點ハ大連灣ニシテ冬季不凍ノ良港ナリ水深亦タ大船巨舶ヲ容ル、ニ便ナリ本港ハ昔ニ滿州貿易ノ要港タルノミナラズ露國カ六億ノ資本ヲ投シ歐亞ノ交通ニ一大變革ヲ加ヘントスル西比利亞鐵道ノ終點ナリ他日東洋ニ於テ香港上海ノ二港ト繁盛ヲ競フノ一大商港トナルヤ蓋シ明カナリ現ニ露國ハ壹千七百萬圓ノ資ヲ以テ港灣改良ノ計畫ヲナシ遠カラズシテ工事ニ着手スベシト云フ其設計ハ既ニ成レリ今回ノ行其圖面ヲ見ル能ハザリシヲ憾トス

露滿鐵道ニ漁船部ヲ置キ現下七隻ノ漁船ヲ有シ鐵道材料運送ノ外一般航業ヲ營メリ二三ヶ月ノ後セベロフ會社所有ノ漁船三隻ヲ買收シテ十隻トナシ鐵道全通ノ時マデニハ其所有漁船ヲ二十五隻ニ増加スルノ計畫ナリト聞ク而シテ現今同鐵道所

有船航路ノ一定セルモノハ芝罘旅順口間隔日發及ヒ上海膠州芝罘旅順口間毎月約
 三回ニシテ其他ハ不定航海ナリ蓋シ他日船隻ヲ増加スルノ目的ハ東洋ノ要港ト鎮
 道トノ連絡ヲ計ルニアルナリ

第十 上海天津航路

一 概況

本航路ハ清國貿易港中其輸出入額ニ於テ第一位ヲ占ムルノ上海ト其第二位ニアル
 ノ天津ヲ連結スルモノニシテ清國沿岸航路中最モ多望ノ航路タルナリ
 清國ノ開市場二十二其貿易額ハ年々増進セリト雖ヒ北清三港即チ天津牛莊及芝罘
 ノ如キ長足ノ進歩ヲナセルノ貿易港ナシ十年間ノ比較ヲ見ルニ左ノ如シ

清國十九港ノ總輸出入額	千八百八十九年	千八百九十八年	增加ノ割合
天津牛莊芝罘ノ總輸出入額	四六九、六六二、六三五	六一〇、九八八、二六〇	三割〇余
	六二、〇三四、八〇五	一三二、八二二、四〇九	十一割四分強

北清三港ノ貿易急進ガ本航路ノ發達ニ如何ナル關係アルカハ言ハズシテ明白ナリ
 唯牛莊港ハ本航路ニ直接ノ關係ヲ有セザルノミ今假リニ昨年ニ於ケル北清三港ト
 上海トノ貿易額ヲ見ルニ三港ノ外國及清國十九港トノ輸出入總額ハ一億三千二百
 八十二万二千四百九兩ニシテ此内單ニ上海トノ貿易ニ係ルモノ實ニ四千四十六万
 八千四百七十四兩ノ多キニ上レリ即チ三港ノ輸出入額ノ殆ソド三分ノ一ハ上海ト
 ノ商業關係ニ屬スルナリ亦以テ上海天津航路ノ繁劇ナルヲ証スルニ足ルベシ目下
 清國ニ於ケル鎮道布設ノ計畫ヲ見ルニ未測量線ヲ合シテ殆ソド六千哩ヲ超ユルト
 雖ヒ其既ニ起工シテ着々進行セルハ北清鎮道露滿鎮道蘆漢鎮道及ヒ西比利亞鎮道
 ノ滿州ト經過シテ浦鹽斯德ニ出ヅルノ本線ノミニシテ此四線ノ延長ハ合計二千七

百哩ノ長キニ達スルナリ是レ北清貿易ノ發達ニ無邊ノ援助ヲ與フルモノナリ上記
 鎮道ノ十分ノ一ダモ未ダ運轉セザリシ昨年ニ於テ北清貿易ハ異數ノ進歩ヲナセリ
 若シ數年ノ後四鎮道落成スルニ至ラバ北清三港ノ輸出入ハ如何ニ増進スベキヤ推
 測スルニ難カラザルベシ

二 上海天津間ノ運賃

輸出入ノ貨物多シト雖モ運賃低廉ナルトキハ航業者ノ利益少キナリ然レニ上海天
 津航路ノ運賃ハ他航路ニ比シテ其割合頗ル好シ即チ左表ノ如シ

上海天津線 運賃比較表

上海天津間	噸數		噸		噸	
	一	一	一	一	一	一
上海天津間	七五〇	八、〇〇	一〇、六六六	九、三三三	一二、四四四	哩
神戸天津間	一、〇一五	四、八〇	四、七二九	四、二〇〇	四、一三八	寸

上海天津間運賃綿糸一噸六兩燐寸一噸七兩ナリ七十五兩ヲ百圓トシ計算ス神戸
 天津間運賃ハ最近ノ相場ニ依ル古

右表ニ依ルトキハ上海天津航路ノ運賃ハ神戸天津線ニ比シテ綿糸ニ於テハ倍額余
 燐寸ニ於テハ三倍ノ上ニ出ヅルヲ見ルナリ

三 天津航路ノ營業者

現今本航路ノ營業者ハ三會社及ビ獨商、メルチャルス「扱」ノ三瀛船ノミ今其一ヶ月間
 本航路使用船數航海度數及總噸數ヲ見ルニ左ノ如シ

船	航海度數	招商局		印度支那瀛船會社		支那航海會社		メルチャルス扱船		合計
		數	噸	數	噸	數	噸	數	噸	
天津出入噸數	五〇、二四一	一〇、三一二	一一、三三六	八、〇八五	七九、九七四	一五	三三	六	三	二五
		三三	六	八	六	五				五一

右表ハ本年三月十一日ヨリ七月十日ニ至ル間ノ兩地發着ニ依リテ調製シタルモ
 ノナリ三會社使用船隻中招商局最多ニシテ他二會社ノ著ルシク少キハ他港ノ商
 業關係二會社ヲシテ他航路ニ多數船隻ヲ用非シムルノ事情アリタルニ依ルナリ
 當時支那航海會社カ牛莊線ニ多數ノ船隻ヲ集メシガ如キ其實例ナリ又々結氷前
 若クハ開河後ニ於テ著ルシク多數ノ船隻ヲ本航路ニ用ユルヲ常トス故ニ右記三
 十日間ノ統計ハ一ケ年ノ比準トナスベカラズ單ニ其概況ヲ示スニ過ギザルナリ
 現ニ上海天津線ニ當レル貿易港ノ輸出入ノ貨物ハ頗ル多ク又々年々非常ノ速力ヲ
 以増進セルハ前記セルガ如シ而シテ其運賃ノ高キコト亦々前記スル所ノ如シ然ル
 ニ臨時船若クハ他ノ定航業者ノ侵入競争シテ他航路ト利益ノ平準ヲ保ツニ至ラザ
 ルハ怪ムヘキニ似タリ蓋シ他ノ常航者若クハ臨時船ノ侵入シテ競争スル能ハザル
 ハ理由アルナリ左ノ如シ

- 一 上海及天津ニ陸揚ノ設備ヲ要スルコト
- 二 太古船會社ト便利ノ特約ヲ要スルコト
- 三 他ノ沿岸航路及外國航路ト連絡ノ便ヲ要スルコト

四 特別構造ノ船舶ヲ要スルコト

以上四項ノ理由ハ他ノ競争者ヲ防禦シテ運賃ヲ維持スルノ鐵壁ナリ而シテ我社ハ楊子江船路ヲ有スルガ爲メ既ニ上海陸上設備ヲナスノ要アリ天津ニ至テハ比較的些少ノ金額ヲ以テ之ヲ完成スルコトヲ得ベシ故ニ第一ノ理由ノ如キ難シトセザルナリ第二太沽舢舨ノ如キ既ニ神戸天津線ヲ有シ更ニ本線ヲ設クルトキハ便利ノ特約ヲ締結スルコト難キニアラズ第三沿岸航路ニ於テハ其最盛ナル楊子江航路ヲ有セリ以テ本航路トノ連絡ヲ通ズルハ有利ノ業ナリトス唯他ノ沿岸航路ナキヲ憾トナスノミ外國航路ノ如キ他社ト接續契約ヲ結ブコト容易ナルベシ第四本航路ニ適當ナル特別構造ノ船舶ハ我社ノ有セザル所ナリト雖モ將來之ヲ製作スルコト、適當分ノ内ハ本航路獨逸船三隻ノ如キ比較的輕吃水ノ在來船ヲ撰ンテ之ヲ使用スルモ著ルシキ不利ナカルベシト信ズルナリ之ヲ要スルニ我社ニ於テハ今ヤ三會社同一ノ利便ヲ有セザルモ進ンテ支那沿岸航路ヲ擴張セント欲セハ第一着ニ先ツ本航路ヲ開クノ利益アルハ蓋シ疑ナキ所ナリ

四 本航路ニ適當ナル船舶

本航路ハ乗客亦タ少カラズト雖モ貨物ノ運送ニ重キヲ置カザルベカラズ故ニ出來得ル丈ク吃水ヲ輕クスルト同時ニ其積量ノ多キヲ要スルナリ而シテ白河ノ改良工事成工セハ天津行船ハ常ニ塘沽ヲ以テ終點トナスモノトセハ招商局ノ公平號ハ本航路ニ最適當ノ構造ナリ其總噸數ハ二千七百五噸長三百二十呎幅四十六呎深二十一呎一吋其平均吃水ハ十五呎ニシテ重量三千噸ヲ積載スベシト云フ然レドモ白河改

良工事其目的ヲ達シ本航路船ニシテ天津バンドニ遡航シ得ルモノトセハ其長ハ二百七十呎ヲ超ユベカラズ白河ノ屈曲甚クシテ其操縱回轉ニ難キヲ以テナリ天津「バンド」マデ遡航シ得ル最大積量ノ瀛船ハ左記ノ如シ

船名	製造年	長	幅	深	總噸數	所有主
アンピン	一、八九六	二六五	四〇、一	二一、二	一、八七九	招商局
タイシユン	一、八九六	二六五	四〇、一	二一、二	一、八〇〇	全
キンシン	一、八九五	二六〇、八	三八、二	一五、〇	一、九八三	印度支那航海會社
センキン	一、八九五	二六〇	三八、二	一七、五	一、六五〇	支那航海會社

右四隻ハ上海天津航路ノ所謂最後ノ改良船ニシテ本航路ニ適當ノ瀛船ナリ故ニ我社ニ於テ上海天津航路ノ瀛船ヲ製造スルトセハ右四隻ヲ標本トシテ參酌設計スルヲ可トス假令白河ノ改良工事ハ成ラズシテ塘沽ヲ本航路ノ終點トスルモノトスルモ上記四隻ハ優等船タルヲ失セザルナリ速力ハ十一海里ヨリ十二海里ノ間ナリト雖モ通常ハ平均十海里余ヲ以テ航海セリト云フ右ノ外天津バンドニ達スルノ瀛船ヲ新造スルニ欠グベカラザルノ要件ハ龍骨ノ前部大約四十呎ノ所ヨリ船底ヲ斜斷シテ其前部ヲ著ルシク淺クスルヲナリ是レ屈曲多キ白河ニ於テ船ノ操縱上最モ緊要ナリト稱ス其他造船上ノ要件ニシテ専門家ノ研究ヲ要スルモノ甚ナカラザルベシ

五 船内組織

船内組織ハ他ノ支那沿岸航路ト異ナル所ナシ其乘組員數ハ左ノ如シ但シ招商局本

航路線新裕號ニ依ル

船長	一	機關士	三	買辦屬料理人	四
運轉士	二	火夫	一六	全給仕	八
水夫長	一	買辦正副	三	船長	一
クナター	四	ステペダー	四	船長屬料理人	三
マスタ	一	タリーマン	一〇	全給仕	八
水夫	一二	タリーマン	一〇	全給仕	八
		洗濯	八		一

合計八十一人
六 中間港

本航路ノ中間港ハ芝罘ニシテ三會船及獨逸船三隻モ常時寄港セリ荷物ノ都合ニ依リ直航シテ本港ヲ除クコトアリト雖モ是レ甚々稀ナリ本港ノ外ニ膠州ハ獨逸船三隻往復必ズ寄港シ三會船モ亦往航若クハ復航ニ於テ時々寄港セリ膠州ハ獨逸政府ガ商港トシテ又々工業地トシテ獎勵策ヲ行ヒ銳意經營セルノ地ニシテ將來有望ノ要港ナルベシ現今ニ於テハ毎回寄航ノ要ナルベシト雖モ蓋シ將來芝罘ヲ除クモ本港ニ寄港スルノ必要ヲ見ルノ日アルヘシ

七 發着日時

支那沿岸ニ於テハ漢口上海航路及上海寧波航路ノ外ニ定期航海ナルモノナシ故ニ三會船ハ勿論獨逸ノ三船モ本航路ニ於テ一定シタル發日ナシ新聞ニ出帆廣告ヲナスモ其最初廣告シタル日ヨリ一二日後レテ發スルヲ常トス甚シキハ一旦某港ニ

寄港スベシトノ廣告ヲナシ置キナガラ出帆前荷客ノ都合ニ依リ俄カニ其寄港ヲ廢止スルコトアリ或ハ曾テ廣告セザリシ地ニ寄港スルコトアリ最モ甚シキハ支那郵便ハ言フニ及バス外國郵便局ノ公告モ信賴スベカラザルノ一事ナリ假令ハ其船何月何日何港ヲ經テ何港ニ郵便ヲ齎ラスベシ切時限ハ何日何時云々ノ公告アルモ漏船會社ノ廣告同様翌日ニ至リテ其發日若クハ經過港ヲ變更スルノ場合甚ダ多シ是レ公衆ノ不便トスル所ナレドモ航業者ニ於テハ利益且必要トスル所ナルヤ勿論ナリ而シテ發日ハ定マラザレドモ上海ノ發時刻ハ殆ソド一定セルナリ上海發ハ終點港到着ノ時ヲ計リ午前四時ヨリ八時迄ノ間ニ出帆スルナリ塘沽發ノ時刻ハ一定セズ唯滿潮ヲ待チテ拔錨スルナリ中間港ノ碇泊時間ハ一ニ營業上ノ必要ニ依リテ定ムルモノナレドモ芝罘膠州トモ二時間乃至五時間ノ繫留ヲ普通トナセリト云フ

八 航海度數

本航路ノ航海度數ハ各社トモ一定セズ季節中ハ修繕ヲナサズシテ出來得ル丈ケ駿速ノ航海ヲナシ其度數ノ多クセントスルノ一方ニ注意セルモノノ如シ天津開河ヨリ結水ニ至ルマデ約九月余ノ間ニ於テ最モ敏速ニ航海ヲナシタルモノハ其度數二十八航海ニ達セリト云フ即チ一航海ノ日數平均十日ニ滿タザルナリ是レ固ヨリ異數ノ事ニシテ通例トナスベカラズ然レモ十日以内ニテ一航海ヲ了ルノ場合ハ少キニアラズ只屢々天候ノ爲メ太沽淺洲ヲ超ユルマデニ多數ノ日子ヲ要スルコトアリ之ガ爲メ一航海十八九日ノ長キニ亘ルノ場合アリト云フ之ヲ要スルニ天津河口ノ如キ不良ナル通路ヲ有スルノ本航路ニ於テハ各航海ノ日數ニ甚シキ伸縮ヲ生ズルハ

免ルベカラザル所ニシテ各船一ケ年間ノ航海度數ノ如キ到底一定スベカラサルナ

九 冬季ノ配船

本航路使用船舶ハ季節ニ於テハ間斷ナク使用シ冬季結氷ノ時ニ於テハ完全ナル修繕ヲ加フルヲ常トス結氷季約九十日間ハ長キガ如シト雖モ本航路船ニシテ冬季芝罘ヲ終點トシテ航海スルモノアリ故ニ上海天津航路船ノ平均休船日數ハ六七十日ノ間ト見テ可ナルベシ是レ充分ナル修繕ヲ加フルニ相當ノ日數ナルベシ時トシテハ修繕ヲ終リテ後チ南方航路ニ使用スルコトアリト雖モ其場合ハ甚ダ少シト云フ

十 冬季ノ郵便物運送

天津行郵便物ハ冬季ニ於テハ芝罘ヨリ開平礦務局ノ漁船ニ托シテ秦皇島ニ送リ此所ヨリ天津北京ニ陸送スルナリ礦務局ノ永平富平等ノ漁船ハ冬季概テ一週一回ハ芝罘秦皇島間ニ郵便物運送ノ用ヲ辨スト云フ秦皇島ニシテ遠カラズシテ開港セラレ築港工事成工シ又チ北清鐵道數哩ノ枝線布設セラレシガ上海天津航路船ハ冬季ハ本島ヲ終點トスルニ至ルベク郵便物ノ運送ニハ大ナル便利ヲ與フルコトナルベシ

附 錄

膠州港港則

第一條

膠州灣ハ内外二港ヨリ成立ス外港即チ青島ノ港界ハ「ク」ラ「ラ」灣ノ東角ト壘角ト通シテ畫シタル線ト威林岬ト「シ」ユニサン「ト」チ結付ケタル線ノ間ニアリテ内港ノ區域ハ威林岬ト「シ」ユニサン「ト」チ結付ケタル線ト「ウ」ー「マ」ンスアイランド「島」ト「ハ」ン「タ」ウ「ノ」北端ヲ連結シタル線ノ間ニアリトス而シテ各種船舶ノ投錨地ハ港界圖ニ夫々記號ヲ付シタリ

第二條

本港ニ入港ノ船舶投錨ヲナサントスルトキハ船長ハ必ス港長又ハ港吏ノ指揮ニ從フベシ

第三條

船長ハ其船舶ノ出入チ港務局ニ届出テ且ツ船舶國籍證書ヲ提出スベシ而シテ税關ヨリノ出港免狀ヲ得且ツ噸稅(登簿噸數一噸ニ付二仙五)ノ支拂テ了シタル後ハ該國籍證書ヲ返付スベシ

船舶入港ノ場合ニハ船長ハ其搭載シタル郵便物ヲ獨國郵便局ニ引渡スヘシ又出港ノ際獨國郵便局ヨリ郵便物ノ遞送ヲ托シタル場合ニハ到着港迄之ヲ運送シ之レガ引渡ヲ終フヘキ義務アルモノトス郵便物搭載ノ船舶ハ丁字旗ヲ檣頭ニ掲クベシ而シテ獨國郵便局ヨリ托シタル郵便物ノ外他ノ郵便物ヲ搭載シ若クハ獨國郵便局以外ニ郵便物ノ引渡ヲナスコトヲ得ス

第四條

船長ハ税關ニ貨物ノ品名個數數量荷印等ヲ記載シタル明細書ヲ提出スヘシ若シ税關ニ於テ統計上更ニ細密ナル報告ヲ要求シタルトハ之レヲ提出スヘシ

阿片ハ其普通ノ箱ニ荷造リシタルモノニ限り輸入スルヲ得一箱ニ足ラザルモノハ輸入スルヲ得ス阿片搭載ノ船舶入港シタル場合ニハ直チニ之ヲ税關ニ報告シ一旦之ヲ税關倉庫ニ納ムヘシ若シ之ニ違反シタルトキハ其貨物ヲ沒取シ其價格ノ五倍(但シ五百弗ヨリ少ナカラザル)ニ當ル罰金ヲ徵收スヘシ

第五條 武器火藥爆發物若シクハ是等ノ原料ヲ輸入セントスルトキハ官衙ノ指揮ヲ仰クベシ斯レ場合ニハ船舶入港次第特ニ官衙ニ報告スベシ

石油及ヒ爆發物ヲ積載シタル船舶ハ港圖ニ示シタル位地ニ投錨シ港務局ニ於テ指定シタル地ニ揚荷ヲ終了シタル後ニアラザレバ轉錨スルヲ得ス而シテ爆發物積卸ヲナス船舶ハ必ス前檣ニ赤色旗ヲ掲クベシ

前記貨物ヲ積卸スル場合ニハ豫メ港長ノ許可ヲ受ケ港長ヨリ與ヘタル命令ハ必ス遵守スヘキモノトス

第六條 船内ニ傳染病患者アリタルトキハ前檣ニ黄色旗ヲ掲クヘシ而シテ港務局ヨリ特ニ許可ヲ與フル迄ハ何人モ上陸若クハ陸地トノ交通ヲナスヲ得ス

第七條 晝間港内ニ出入スル船舶ハ其國旗ヲ掲クベシ

第八條 船長ハ港務局又ハ其海員ノ國籍ヲ代表スル領事官ヲ經由セスシテ海員ヲ解約スルヲ得ス解約シタル海員ハ解約後二十四時間内ニ其解約ノ證明書ヲ港務局ニ提出スベシ

何レノ船長モ港務局又ハ其船ノ國籍ヲ代表スル領事館官ノ許可ヲクシテ海員ヲ解約スヘカラズ海員ヲ解約セントスル場合ニハ船長ニ於テ三ヶ月間海員ノ生活

ニ差支ナキ證明ヲ與フルニアラサレバ解約ノ許可証ヲ與ヘサルモノトス海員ハ自己ノ勝手若クハ怠慢ヲ以テ本領土ニ停留スルヲ得ス

第九條 海員失踪シタルトキハ港務局之レヲ捕縛シ之ヲ其船舶ニ送致スヘシ斯ル場合ニハ船舶及ヒ家屋ノ搜索ヲ行ヒ何人ト雖モ事情ヲ知テ之ヲ隱匿シタルモノハ罰ニ處スベシ

第十條 港内ニ於テ其船舶ノ乗組員若クハ旅客ニ死者アルトキハ船長ハ港務局ニ報告シ且ツ清國人ヲ除ク外ハ戶籍役場ニモ之ヲ通報スベシ

第十一條 船長ト水夫トノ爭論ヲ生シ其國籍ヲ代表スルモノナキトキハ港務局之レカ裁決ヲナシ罪ノ輕重ニヨリ三百五十弗ヨリ多カラザル罰金又ハ六週間以内ノ拘留ニ處スベシ

第十二條 港内ニ碇泊スル船舶ハ日没ヨリ日出迄視易キ場所ニ明燈ヲ掲クベシ船内出火又ハ船員ノ騷擾ヲ醸シタル場合ニハ鐘ヲ鳴シ旗ヲ掲クテ危難ノ會圖ヲナシ港務局ニ通報スベシ

第十三條 港界内ニ「バラスト」及塵灰ヲ投棄ス可ラス

港内ニ障礙トナルベキ物体アルトキハ其所有主若クハ管理人ニ通告シテ之ヲ除去セシムベシ若シ之レカ通告ヲナシタル後猶之レヲ撤去セサルトキハ港吏之レヲ除去シ其費用ヲ徵收スベシ

何人ト雖モ官衙ノ指圖ニ依ラサレバ船長又ハ當番士官ノ許可ヲクシテ船内ニ入ルヲ得ス

沙船舢舨等ノ小船ノ船長又ハ當番士官ノ許可ナクシテ其船ニ横付ヲナスコトヲ得

第十四條 港務局ノ許可ヲ得サレバ港内ニ浮標ヲ設置スルコトヲ得ス已ニ設置シタル浮標ハ港務局之レヲ管理シ港内ノ安全及ヒ行事ノ都合ニヨリ之レカ位置ヲ變更スルコトアルベシ

第十五條 第十條及第十四條ノ規則ヲ犯シタルモノハ二十五弗以内第二條第三條第十二條ヲ犯シタルモノハ百弗以内第五條第六條ヲ犯シタルモノハ二千弗以内ノ罰金ニ處スベシ

第八條ヲ犯シタルモノハ船長ハ百弗以内ノ罰金ニ海員ハ二十五弗以内ノ罰金又ハ二十五日以内ノ拘留ニ處スベシ

第十三條ノ規則ヲ犯シタルモノハ五十弗以内ノ罰金ニ處シ若シ支辨スルコト能ハサルモノハ一ヶ月以内ノ禁錮ニ處スベシ第二條ヲ犯シタルモノハ三百五十弗以内ノ罰金若クハ三ヶ月以内ノ禁錮ニ處スベシ

本規則ハ千八百九十九年七月一日ヨリ實施ス
千八百九十九年五月二十三日青島ニ於テ

知事 ヤシユケ

膠州港稅關假規則

第一節 輸入輸出及積替

一本港ニ於ケル貨物ノ輸入ハ總テ自由トス但シ鴉片武器爆發物及ヒ是等原料品ノ輸入ハ特別規定ニ由ルモノトス(第二節及第三節參看)

二清國各港ヨリ輸入シタル外國品及ヒ清國品ニシテ納稅濟證書ナキモノハ獨國ヨリ清國へ輸出ノ稅率ニ基キ輸入稅ヲ徵收ス

三清國各港ヨリ輸入シタル清國品ニシテ納稅濟證書アルモノヲ再ヒ内地ニ輸入スル場合ニハ沿岸通商稅ヲ徵收スベシ

四清國內地ヨリ送り來レル清國品ヲ輸出セントスルモノハ定率ノ稅金ヲ徵收スベシ但禁制品ニ對スル清國トノ條約ハ本項ニヨリ其効力ヲ失フコトナシ

五膠州ニ於ケル獨國領土ノ產出品及ヒ之レヲ原料トシテ製作シ若クハ海外ヨリ輸入シタル原料ニヨリ製作シタル物品ニシテ其產地官衙ノ證明書アルモノハ青島ニテ船積ノ際輸出稅ヲ徵收セス

六通過証ヲ得テ貨物ヲ清國內地ヨリ輸出シ若クハ輸入セントスルトキハ輸出入稅ノ外内地通過稅ヲ收ムベシ

七通過証其他總テノ書類ハ青島稅關長之レヲ發行ス

八條約ニ於ケル稅率關係ノ諸規則ハ總テ西洋形船舶ニテ運送スル貨物ニ適用スルモノニシテ清國船(沙船)及ヒ其船舶ニテ青島ニ輸入ノ貨物ニ對スル各種ノ稅金ハ膠州其他山東省各港ニ於テ從來徵收シ若クハ將來徵收セラレベキ率額ヨリ超過ス

沙船舢舨等ノ小船ノ船長又ハ當番士官ノ許可ナシシテ其船ニ横付チナスコト得

第十四條 港務局ノ許可ヲ得サレバ港内ニ浮標ヲ設置スルコト得ス已ニ設置シタル浮標ハ港務局之レヲ管理シ港内ノ安全及ヒ行事ノ都合ニヨリ之レカ位置ヲ變更スルコトアルベシ

第十五條 第十條及第十四條ノ規則ヲ犯シタルモノハ二十五弗以内第二條第三條第十二條ヲ犯シタルモノハ百弗以内第五條第六條ヲ犯シタルモノハ二千弗以内ノ罰金ニ處スベシ

第八條ヲ犯シタルモノハ船長ハ百弗以内ノ罰金ニ海員ハ二十五弗以内ノ罰金又ハ二十五日以内ノ拘留ニ處スベシ

第十三條ノ規則ヲ犯シタルモノハ五十弗以内ノ罰金ニ處シ若シ支辨スルコト能ハサルモノハ一ヶ月以内ノ禁錮ニ處スベシ第二條ヲ犯シタルモノハ三百五十弗以内ノ罰金若クハ三ヶ月以内ノ禁錮ニ處スベシ

本規則ハ千八百九十九年七月一日ヨリ實施ス
千八百九十九年五月二十三日青島ニ於テ

知事 ヤシユケ

膠州港稅關假規則

第一節 輸入輸出及積替

一本港ニ於ケル貨物ノ輸入ハ總テ自由トス但シ鴉片武器爆發物及ヒ是等原料品ノ輸入ハ特別規定ニ由ルモノトス(第二節及第三節參看)

二清國各港ヨリ輸入シタル外國品及ヒ清國品ニシテ納稅濟證書ナキモノハ獨國ヨリ清國へ輸出ノ稅率ニ基キ輸入稅ヲ徵收ス

三清國各港ヨリ輸入シタル清國品ニシテ納稅濟證書アルモノヲ再ヒ内地ニ輸入スル場合ニハ沿岸通商稅ヲ徵收スベシ

四清國內地ヨリ送り來レル清國品ヲ輸出セントスルモノハ定率ノ稅金ヲ徵收スベシ但禁制品ニ對スル清國トノ條約ハ本項ニヨリ其効力ヲ失フコトナシ

五膠州ニ於ケル獨國領土ノ產出品及ヒ之レヲ原料トシテ製作シ若クハ海外ヨリ輸入シタル原料ニヨリ製作シタル物品ニシテ其產地官衙ノ證明書アルモノハ青島ニ

テ積積ノ際輸出稅ヲ徵收セス
六通過証ヲ得テ貨物ヲ清國內地ヨリ輸出シ若クハ輸入セントスルトキハ輸出入稅

ノ外内地通過稅ヲ收ムベシ
七通過証其他總テノ書類ハ青島稅關長之レヲ發行ス

八條約ニ於ケル稅率關係ノ諸規則ハ總テ西洋形船舶ニテ運送スル貨物ニ適用スルモノニシテ清國船(沙船)及ヒ其船舶ニテ青島ニ輸入ノ貨物ニ對スル各種ノ稅金ハ膠州其他山東省各港ニ於テ從來徵收シ若クハ將來徵收セラレベキ率額ヨリ超過ス

ルヲナキモノトス

第二節 鴉片

- 一 鴉片ハ其普通ノ箱ニ荷造シタルモノニアラサレハ輸入スルヲ得ス而シテ該品着荷ノ節ハ直チニ税關ニ報告シ關吏監督下ニ税關倉庫ニ納ムベシ
- 二 鴉片ヲ輸出セントスル場合ニハ關稅及ヒ厘金稅ヲ收メタル上税關ノ許可證ヲ得其指揮ヲ受ケテ之レカ輸出ヲナスヲ得然レモ別ニ定メタル規則ヲ遵守セサル可ラス

第三節 武器及爆發物

- 一 武器及爆發物又ハ之レカ原料ヲ獨國領土ニ輸入セントスルモノハ別ニ定メタル規則ニ由ルベシ
- 二 前項ノ物件ハ確固タル證明ヲ提出シタル上政府ノ請求ニヨリ特ニ免許ヲ與ヘタルニアラサレハ獨國領土ヨリ内地ニ輸出スルヲ得ス

第四節 輸入貨物明細書并ニ税關監督

- 一 船舶着港シタルトキハ税關吏直チニ本船ニ臨檢スベシ船長ハ該關吏ニ其搭載貨物ノ明細書ヲ若シ清國各港ヨリスルモノナルトキハ税關ノ證明書ヲ提出スベシ
- 二 貨物明細書ニハ其貨物ノ名稱數量等ヲ正確ニ記載シ且ツ統計上更ニ詳細ナル事項ノ記載ヲ求メタルトキハ直チニ之レヲ提出スベシ
- 三 通シ貨物及ヒ再輸出ニ係ル貨物ハ夫々明細書ニ之レヲ明記スベシ
- 四 輸入貨物引取人ハ統計上船舶ヨリ提出セル明細書ヲ明確ナラシムル材料ヲ供ス

ル爲メ貨物陸揚後一週間内ニ其貨物ノ名稱數量重量及ヒ價格等ニ關シ明細ナル報告ヲ税關ニ提出スベシ若シ期限内ニ之レヲ提出セサルトキハ二十五弗ヨリ多カラザル罰金ニ處スベシ

第五節 沿岸通商稅ニ關スル特許

- 一 單ニ納稅濟証書ニヨリ清國各港ヨリ貨物ヲ輸入シタルトキハ税關ハ之レヲ點檢シ沿岸通商稅ニ關スル特許權ヲ奪フベシ

第六節 輸出貨物明細書并ニ税關監督

- 一 輸出貨物ハ税關ニ於テ之レヲ點檢シ規定ノ納稅ヲ了シタル上船積免許証ヲ交付スベシ税關ノ免許証ナクシテ船積シタル貨物ハ沒收スベシ
- 二 納稅濟輸出貨物ニシテ船積ヲナスヲ得サリシトキハ再ヒ輸出稅ヲ課セラル、忠ナキ様陸揚前之レヲ税關ニ報告スベシ
- 三 船舶積荷ヲ了ヘタル後船長又ハ其代理人ハ其貨物ノ明細書ヲ税關ニ提出スベシ而シテ其明細書ニハ品名荷印員數等ヲ列舉シテ脱漏アル可ラズ若シ虛偽ノ記入ヲナシタルトキハ船長ハ百弗ヨリ多カラサル罰金ニ處スベシ
- 四 税關ノ許可ナクシテ一船ヨリ他船ニ貨物ノ積替ヲナスヲ得ス
- 五 出港免狀ノ下付ヲ願出テタルトキハ船中ニ於テ船積免狀及ヒ船積差圖書ヲ點檢シテ其正當ノ手續ヲ踐ミタルトキ及ヒ明細書ノ正確ナルヲ并ニ輸出稅ノ全部納濟トナレルトキ認メタルトキハ出港免狀ヲ交付スベシ而シテ本船ハ港務局ヨリ船舶國籍証書及ヒ其他書類ノ返付ヲ受ケ出港スルヲ得ベシ

第七節 貨物積卸時間

一 船舶若シ日曜祭日及ヒ夜間貨物ノ積卸ヲナサントスルキハ豫メ税關執務時間内ニ願出テ特ニ其許可ヲ受クヘシ而シテ之レニ對シ更ニ告知ヲ發スル迄ハ當分無料ニテ開關ヲ行フベシ

二 郵便物ハ税關ノ許可ヲ要セズ何時ニテモ積卸ヲナスヲ得

第八節 税關執務時間

一 税關ハ日曜祭日ヲ除ク外午前十時ヨリ午後四時迄執務ヲナス

第九節 控訴

一 税關長ノ處分ヲナシタル沒收及ヒ罰金ニ對シ控訴ヲナサントスルキハ其手續ハ千八百六十八年ノ規定ニ係ル合議裁判規則ノ精神ニ基キ執行スベシ
本規則ハ總テノ商船及沙船ニ適用スルモノニシテ千八百九十九年七月一日ヨリ實施ス

千八百九十九年三月二十三日 青島税關長

チールメン

鴉片武器爆發物及其原料輸入ニ關スル特別規則

一 鴉片ハ其普通ノ箱ニ荷造セラレタルモノニ限り輸入スルヲ得若シ一箱ニ違ヒサルモノハ輸入スルヲ得ス

鴉片着荷ノ節ハ直チニ税關ニ報シ關吏監督ノ下ニ其倉庫ニ納ムベシ關吏ハ其貨

物ノ疑ハシキヲ認メタルキハ之レカ陸揚ヲ停止シ船内ヲ穿索スルヲアルベシ此場合ニ於テハ船長ハ出來得ル限リ助力ヲ與フベシ

若シ前項ニ違犯シタルキハ阿片ヲ沒收シ且ツ其船舶ハ鴉片ノ價格ノ五倍ニ相當スル(但五百弗ヨリ少ナカラサル)罰金ニ處スベシ

獨國領土ニ消費スヘキ鴉片ハ政府及ヒ税關ノ監督ノ下ニ調製スベシ

調製シタル鴉片ハ十、二十、三十、四十、五十グラム入りノ錫製罐ニ荷造リシ賣價ニ相當スル印紙ヲ之レニ貼付スベシ而シテ之レカ賣買ハ特許ノ商人ニ限ルモノニシテ該商人ヨリハ特ニ若干ノ特許料ヲ徵收ス

前記ノ規定ニ違反シ一個人ニシテ鴉片ヲ所持シタルモノアルキハ悉ク之レヲ沒收シ其價格ノ五倍(但シ五百弗ヨリ少ナカラサル)罰金ニ處スベシ若シ之レガ納付ヲナスコト能ハサルキハ三月以内ノ禁錮ニ處スベシ

第二節 武器及爆發物

一 武器及爆發物并ニ其原料ハ着荷ノ上ハ之レヲ税關ニ報告シ港則ニヨリ陸揚藏入レテナスベシ火藥爆發物及其原料ヲ税關内特別ノ倉庫ニ納メ港務局ノ免許ヲ得タル後ニアラサレバ荷渡ヲナスコトヲ得ス而シテ之レカ藏入ニ對シテハ若干ノ藏敷ヲ徵スベシ

二 武器ハ税關ノ倉庫ニ藏入レシ港務局ノ許可ヲクシテ荷渡ヲナスコトヲ得ス又其藏入ニ對シテハ藏敷料ヲ徵收スヘシ武器火藥ノ小賣ハ特許規定ニ定メタル條件ニヨリ特許ヲ受ケタル商人ニ限り販賣スルヲ得而シテ該商人ヨリハ若干ノ特許

料ヲ徴收スベシ

三前記ノ諸規則ヲ犯シタルモノハ其品物ヲ沒收シ五百圓ヨリ多カラサル罰金ニ處スベシ小船ニテ武器及ヒ爆發物ヲ積載シタルモノ前記ノ規則ニ違犯シタルハ悉ク之ヲ沒收シ船員罰金ヲ納ムルヲ得サルハ三ヶ月以内ノ禁錮ニ處スベシ

清國內地河海漁船航行ニ關スル改正規程 (千八百九十八年)

一清國內地ニ航行セントスル漁船ハ爾今其目的ヲ以テ特ニ條約港ニ於テ登記ヲ受ケタルモノニ對シ許可スルモノトス而シテ此等ノ船舶ハ本規程ニ準據シテ自由ニ各地ヘ往復スルヲ得ト雖モ其航行區域ハ單ニ内地ニ限り決シテ清國領土ノ外ニ航進スルヲ得ズ

本規程ニ「インランドウォーター」トハ芝罘條約ニ於ケル内地ト稱スルモノト同一ノ意義ヲ有スルモノトス

二其所屬ノ内外ハタルヲ問ハズ外海船ニアラザル漁船ニシテ開港地間ヲ往復スルモノ及開港地ヨリ内地ヘ航行スルモノハ必ズ稅關ノ登記ヲ經船主ノ名義及住所漁船ノ名稱符字水夫ノ員數等其他法律上其國籍証書ニ記載ノ必要ナル事項ヲ詳記シタル免狀ヲ受クベシ而シテ此免狀ハ稅關ニテ年々之ヲ改メ船主ノ變更シタル場合或ハ航海ヲ停止セシ場合ハ之ヲ返却セシム其免狀ニ對スル最初ノ手数料ハ十テールニシテ其後書換ヲナス都度ニテールヲ徴收ス

三己ニ登記ヲ經タル漁船ハ稅關ニ届出ヲサズシテ自由ニ各港間ヲ往復スルヲ得然レモ内地ヘ航行セントスルトキハ豫メ其發着ヲ稅關ニ届出ツヘシ登記ヲ

經ザル漁船ハ内地ヘ航行スルヲ得ズ

四此等ノ登記ヲ經タル漁船ノ點燈衝突豫防法水夫ノ雇入及漁籠漁機ノ検査其他ノ事項ニ關シテハ其所屬港ニ於ケル規則ヲ遵守スベシ而シテ此等ノ規則ハ稅關ニ於テ之ヲ公示シ且ツ交付シタル免狀中ニ登載スベシ

五登記ヲ經タル漁船本規定ニ基キ開港地ヨリ内地ヘ有稅品ヲ輸送セントスル場合ハ豫メ稅關ニ届出テ已定ノ稅金ヲ仕拂フベシ又内地ヨリ開港地ヘ輸送スル有稅品モ亦同様ノ手續ヲ履ムベシ而シテ外國船ニ對スル稅率ハ關稅法ニ依リ徴收スベシ

六内地ヘ向ケ荷物ヲ積出シ若クハ陸揚ヲナス場合ハ其荷揚及積込ヲ行フ場所ニ於テ已定ノ稅金若クハ其負擔スベキ費用ヲ仕拂フベシ而シテ外國船ニテ運送スル荷物ニ對シテハ其手續ハ關稅法ニヨリ取扱フモノトス

七登記ヲ經タル漁船曳船ヲナス場合ハ何レノ釐金關ニモ投錨シ其曳船ノ検査ヲ受クベシ而シテ其兩船ニ對スル稅率ハ其地方ニ於ケル已定ノ規則ニ準ジテ徴收スルモノトス而シテ外國ニ對シテ執行スベキ規則ハ一々條約ニ準據シ且ツ稅關ニ於テ豫メ之ヲ公示スルモノトス登記ヲ經ザル漁船ハ揚子江ニ於テ曳船ヲナスヲ得ズ

八内地ニ於テ納稅法ニ背キ或ハ生命及財産ニ對シ罪ヲ犯シタルモノアルトキハ地方廳ハ其管内ニ於ケル人氏ノ犯罪ト同様ノ處分ヲナスベシ然レドモ外國人所有ノ船舶ナルカ或ハ犯罪セル清國人外國船ニ使用セラレタルモノナル場合ハ地方

官ハ之ヲ最近ノ税關長へ通知シ而シテ税關長ハ之ヲ領事ニ通知シ領事ハ事件ニ對スル處分法審査ノ爲メ代理人ヲ派遣スベシ若シ犯罪者外國人トシテ處分法ヲ請求シタル場合ハ條約ニ規定セラレタル方法ニヨリ之ヲ處分シ旅行券ヲ有セザル外國人トシテ之ヲ逮捕シ最近港ニ於ケル税關長ノ手ヲ經テ所屬國領事ニ引渡スベシ

九瀛船若シ其停船ヲ要スル釐金關其他ニ停船ヲナサスシテ通過シ或ハ旅客水夫等内地ニ於テ樁事ヲ引起セシ場合ハ其瀛船ハ其地方ノ法律ニヨリテ罰金若クハ刑罰ニ處シ税關ハ其免狀ヲ取上ケ再ビ内地ニ營業スルヲ禁止スベシ若シ外國人所有ノ瀛船之ニ關係セルモノナルハ當業者ハ聯合裁判廳ニ事實ヲ提供シ千八百六十八年布告ノ罰金及沒收ニ關スル法律ニヨリ處分ヲ受クルヲ得前記規則ハ瀛船業取締ノ爲メニ規定シタルモノニシテ當分間施行スルモノトス他日變更ノ必要ヲ生シタル場合ハ時ニ之ヲ改正スベシ

(完)

明治三十二年十二月 六日印刷
全 年十二月十六日發行

發行者 河野文一

大阪市北區中ノ島三丁目
六十四番屋敷

印刷者 瀨戸清次郎

全 市西區鞆下通一丁目
四十八番屋敷

印刷所 鞆活版製造所一成舎

全 九十二番屋敷 所

○ 脱 漏

本書十二頁貨物ニ對スル費用ノ項第四行習慣ナリト
スノ次ニ「但シ清國沿岸各港ニ輸出入スル貨物ニ對シ
テハ荷主引取日限ハ十日間トナリ居レリ」三十七字ヲ
脱ス

